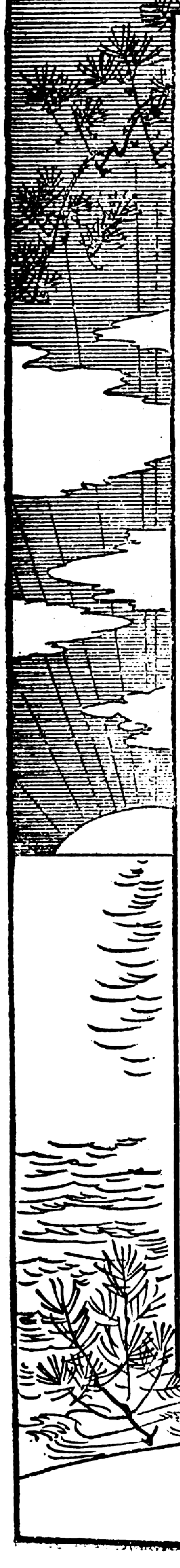
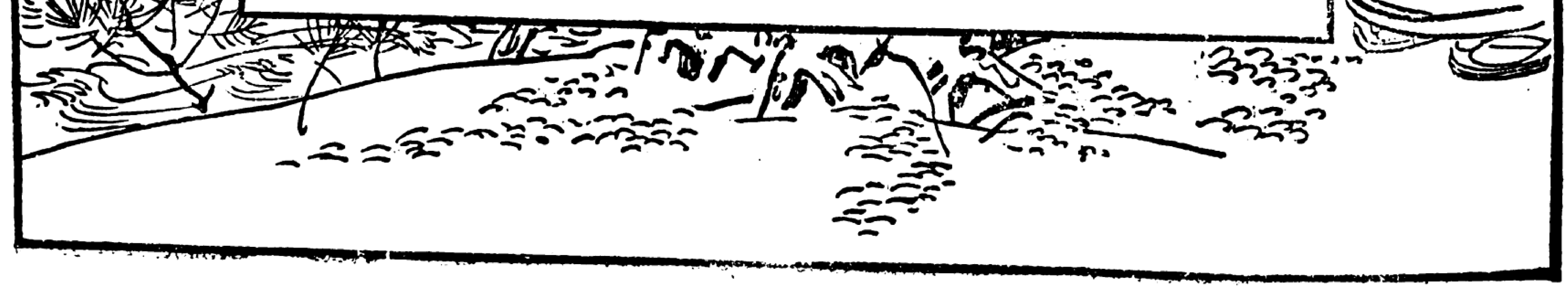
愛國婦人會機關（愛國婦人會の目的は軍人の遺族及び癈兵を救護するにあり）

本號附錄（閑院宮同妃兩殿下の御肖像を附錄とせり）



新年之辭

鷄の鳴聲も今朝は殊更爽かに、水汲む釣瓶の音も勇ましく、やがて東の空紅を潮して、沈靜かなる大海に洗ひ立てたる初日の光さしいて、世界の春は、日の本よりぞ始まりける、明らけく治る御代の四十年は、今日より立ちそめて、檐端にひらめく日の丸の色鮮かに、炊烟裕かに立ち昇りて、家内頭並べて雜煮を祝ふ太平の難有さ、戰爭のせの字も忘れて、平和の瑞祥は、道行く禮者の顏にも顯はれたり。何時もながらの新年なれど、度毎に新らしく、取り分け今年は、分別盛り仕事盛りの明治も四十年に達して、前三十年の創業と開拓の後を受けて、愈々仕上げに掛る第一年、しつかり遣ふぞとは、國民の期せずして一致する腹の中なるべし。諺にも一日の計は、朝に在りといへり、今年の計も、今より定め置かざるべからず、婦人は先づ家を治めよとは、言は古りたれども、常に新しき眞理なり。年中家内睦まじく、元氣よく、樂しきこと、恰も元日の如くならしむるは、主婦たるものゝ腕の取り方如何にあり、其他家の內外の整頓、來客の應待等、すべて元日の氣分にて元日の如くなり居らば、家庭は立派に治まるの外なし。此點に於て元日は年中の模範を示すものといふべし。されど今よりの婦人は、家庭の仕事にのみ滿足すべきにあらず、家庭以外國家、社會の事業にも直接間接盡す所なかるべからず、婦人の理想は何時も天人の如く遊び暮らすにあらずして、時計の針の休みなきが如く、年中働くにあり、人は用事のなきを憂へず、爲さゞるを憂ふべきのみ。近來女子の教育は俄かに勃興せるも、程度尙低く、學校教育以上に、精神の修養を與ふる所なく、又其要求を感ずる婦人の少なきは、四十年以後の日本には不似合のことなり、乃ち今後の婦人は須く此方面に向て邁進せざるべからず、蓋し教育は有らゆる事業の根本なればなり。すべての人事の裏面には必ず婦人あるが如く、一國の膨脹、殖民事業に於ても、婦人の力を要するや大なり、其亞細亞の婦人を嚮導し開發するの任の如き、又日本の婦人、殊に教育あり意力ある婦人を外にしては、求むべからざるなり。慈善事業は近來多少見るべきものありと雖も、之を歐米に比すれば、其規模の劣れるのみならず、其信ずる所を行ふの勇氣と努力とに於て尙著しく我れの彼れに及ばざる所あり、其他女子の權利、職業、社會上の位置等に關する問題の、婦人自らの努力に待つべきもの多々あるなり、我等は明治の御代に一新時期を劃すべき、第四十年に於て、すべてこれらの方面に於て、日本婦人が如何に活動するかを、今より刮目して見んと欲するものなり。殊に我が愛國婦人會は獨り我が國に於ける未曾有絕大の婦人會たるのみならず、世界の一大婦人會にして、其救護を受くべき軍人の遺族及び癈兵は言ふに及ばず、國家の消長と至大の關係あり、又世界に向て、日本全體の婦人を代表するものといふべし、即ち本會の活動は天下の最も注目する所にして昨年 皇后陛下の本會に向て優渥なる令旨を賜はり、又總裁殿下の常に御心を注がせられ、且屢々地方支部に御臨場遊ばされたるも、畢竟本會の責任を重大と思召されたるに外ならずと恐察するものなり。此意味に於て、我等は本會及び五十餘萬の會員諸氏が、如何に目覺ましく、四十年らしく働かるゝかを、今より想像し、期待して、更に一杯の屠蘇を汲んて、本年の門出を祝するものなり。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

現代婦人の長所と短所

▲理想の婦人は如何にして作らるゝ乎

男爵　金子堅太郎

紳士と云ひ、淑女と云はるゝ資格を有するものは、國の異なるに依つて相違あるものでなく、各國共通の性質を有するものであつて、何れの國へ旅行して見ても、同樣の性質ある人に出遇ふことが出來るものである、其所で日本と米國との淑女を比較して見ても、其資格に於ては格別相違はないのである。

米國婦人は飛上りのお轉婆のみであると思ふたら間違ひで、溫厚なる淑女もまた多いのである、特に同國婦人の特色は、男子と同じ程度の學問を受け、政事、文學、宗教、美術等何れの方面をも研究し、且ては、交際に長けて居る、米國では交際の主人は婦人で、婦人の交際に依つて社會の融和が計られて居る、これが同國婦人第一の特色である、夫れから第二の特色は、獨立自營の精神に富んで居ることで、苟も成年に達したる以上は、男女

を問はず總て父母の保護權を脱し、自由獨立の身となつて十分に活動して居る。

以上は其特色であるが、これに對する弊害を云へば、米國は個人主義、日本は家族主義で、其組織が異つて居るが、私は日本の家族主義の方を贊成する、假令ば米國では夫を選ぶことを娘の自由に任して居るが、日本は其の選定權を父母が握つて居る、且つ其選ぶ主義も、日本では家門の繁榮の爲め深く計ると云ふ主義であるが、米國では自己の爲め最も幸福なることを選ぶと云ふ風であつて、兩者共に幸福なる家庭を作つて居るものもあるが、どちらかと云へば、日本の方が善良なる結果を得て居るやうに思ふ。

日本婦人には著しい特色がある、それは夫を助けて內顧の憂ひなからしめ、夫をして十分に社會に出て働かしむると、則ち言葉を替へて云へば、家計育兒一切のことを引受けて處理し、能く內政を經營して行くことである、併し米國婦人の如く活潑の態度なく、勇氣なく、智識の乏いのが缺點即ち短所である。

要するに、何れの國でも、長所のみで短所が無かつたなれば、政治もいらず、宗教も無用のものとなつて了ふ、教育は理想の人を作らんとするのが其の目的である、故に世界に於ける理想の婦人を作らんとするには、米國よりして其長所たる自治の精神と、活潑なる氣象とを採用し、又日本婦人固有の溫良なる美風を助長して行くことに勤めたなれば、恰も美しい櫻の花に梅の香りを持たせたやうな、理想の名花が作くれることと思ふ。

▲世界各國婦人の長所と短所

法學博士　山田三良

世界各國婦人の短所と長所とに就て申しますと先づ短所から擧げると、米國婦人は非常に權利が强いやうでありますが、此權利は婦人に實力があつて始めて得たる權利ではなく、殖民地では婦人の數が少い爲めに重寶がられて自然實力はないが權利が强くなつて來たので、其發達したるや甚だ突飛であります、さうして斯くの如き女權が擴張せられたる結果、眼中男子なしと云ふ振舞ひをなして、女らしき特色を失ふに至り、男子と同樣の學問をして文學者になるとか、數學者になるとか云ふ婦人が多くなつて居ります、併し傑出したる婦人の學者は甚だ少く、其の小なる學者が各々獨立して勝手な議論をして居ります、只其の長所とも云ふべきは、獨立心に富んで居る爲めに誘惑に抵抗する力が强く、腐敗したる所が少いことであります、佛國婦人は交際が上手て、萬事が派手やかて、日本で云へば藝者の如く、實に賑かな感情的に人を引付

ける力は强いが、威嚴が少くて甚だ輕佻な所があります、獨逸の婦人は家政を執ることが專門であつて、臺所に多く引込んで居り、色々の社會的事業に携ては居るが、其の割合に社會上の權利が少くあります、英國婦人は婦人の力に依つて社會道德を維持して居ると云ふても宜しい、假令ば婦人の居る席の傍らに於て、下等の言葉を用ゐる男子があつたならば、婦人は直に其場所を立ち去ると云ふほどて、自然男子も婦人の力に依つて紳士らしい紳士となることが出來るのであります、又英國婦人の權利は實力で得たる權利で、日本婦人の模範とすべき婦人は英國婦人であると思ひます、要するに英國婦人は女皇の如く、米國婦人は女王の如く、佛國婦人は貴族の婦人の如く、獨逸婦人は女中の如してあるとの評があります、偖て日本婦人は近來法律上に權利が認められて來て、女權も擴張されて來ましたが、女子教育は未だ進步して居りません、英國あたりでは、一人に對する一ヶ月の教育費を三百圓位ゐ支出して少しも惜しみませんが、日本の家庭に於ては教育の爲めに費す金は非常に出し惜みをして、其子女を十分に教育しませぬ、故に智識が充分に發達して居りません、是れが日本婦人、むしろ日本の缺點短所であると思ひます。

▲奥床しく愼ましく

子爵　小笠原長生

小生は日本婦人に付て特に研究仕り候等の事無之く候が思ひ浮びしことを申上ぐれば、奥ゆかしく、愼ましきが日本婦人特有の美德にて、即ち長所かと存じ申し候、さりながら、利害相伴ふは免る可らざるの理にて、短所もまたそれにあるべく候へども、比較上たしかに長所の方優り居るものと斷言致し候、從つて永くこの美德を失はざるやう仕りたきものに御座候、匆々。

▲武士道に遠かり忠孝節義の念に乏し

評議員　三輪田眞佐子

凡そ、短所と長所とは、相伴ふものにて、特に昔を惜み、今を輕んずる理由なきと同時に、今を譽め、昔を誹る道理も無之候。そは長所の裡に短所あり、短所の中に長所有之候へばこそ。されど、強いて區別せば、現代婦人は科學的智識の進步につれて、迷信少く、衛生々理の大意を解するもの多く相成候。亦、地理歷史の教材より、見聞廣きを覺え候、尙、戰爭と外交との結果、世界の文明にも親しむやう相成候。されど、日に月に、武士道に遠かり、忠孝節義の念乏しく、薄志弱行の嫌を免れず候。加之、愛を口にするもの有之候も。和德の尊きを知らざるため、家庭に風波を生ずる恐なきかと存候。且つ、往々、實際上の活用に拙なるを以て主なる短所と責むるものも

有之候ところ、之は兩三年、襷をかけて、本氣に家事を行へば、容易に人并と相成候はんも、德性の具はらざる女子に至りては、年と共に、益、あしき結果を來すべしと存じ居り候。かしこ。

▲一長一短分量相同じ

文學士　下田次郎

△長所

謙遜、從順、柔和、勤勉、忍耐、犧牲心、愛國心、慈愛、改良の精神

△短所

無學、無方針、無意氣地、偏狹、盲從、無自重心、消極、輕卒、世界を知らぬこと

▲三箇の長所と三箇の短所

文學士　三輪田元道

（一）現代婦人の長所は
一 社交的生活に慣れつゝあること
一 博愛的觀念の發達しつゝあること
一 家庭を人生の樂土とせんことを理想とすること

（二）現代婦人の短所は
一 自得せし信念の確立せざること
一 男子に利用せられて未だ自重の精神乏しきこと
一 物質的美を知り人格の尊さを知らざること

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲精神上の修養に缺ぐる所あり

文學博士　前田慧雲

△長所

現代の婦人と云ふても、先づ標準を女學生と定めて觀察すれば、長所は身體の壯健な事と、動作の活潑な事である。

△短所

男子は智に情を含み、婦人は情に智を含みてこそ、立派な性格と云はるゝのである、然るに現代の女學生は、溫順を減じて智を表面に現はす傾向となつて居る、これは活潑に伴ふ缺點である。

次には教育を受けたる割合に精神上の修養が足らぬ、昔の婦人の讀みたる書と云へば、孔孟の教訓より他には先づなかつたから、精神上の修養には大なる功があつたが、現代婦人は學問の範圍が廣く、科學的方面に眼を着けるやうになつたので、此れは教育の方法にもよるから、强ち女學生のみの罪ではないが、兎に角内に省みて己を正しくすると云ふよりは、專ら外に伸びることにのみ多く着眼して居る、浮薄、虚榮等の不德は多く斯かる點より湧出するものである。

▲思想幼稚にして盲從の氣味がある

文學博士　村上專精

△長所

現代の日本婦人は甚だ可憫想な境遇にある、殊に女學生なぞは一段攻撃批評の中心點となつて居るから、社會の婦人問題中或は針小棒大な點が澤山あるであらうと思ふが、先づ其長所とするは溫和恭謙であつて、家族本位を主として居ることである。

△短所

其短所は思想幼稚にして理性に甚だ乏しく物に偏する性質である、故に教育するに當つても、教師として缺點を咎めても、善惡を識別して從ふでなく、少しく盲從の氣味がある、是れは溫和に伴ふ短所であるから、根本的の教育も施せるが、婦人は只默して意向を發表せぬから、從て最も困難を感ずる場合が多くあるのである。

▲智育は進めど情熱に乏し

慶應義塾々長　鎌田榮吉

△長所

長所として特に賞賛する程のことも無いが、先づ其身體の發達から智育の進歩して居ることが、昔の婦人に比して大なる進歩、即ち長所である。

△短所

昔の婦人に比しては進歩したる現代の婦人も歐米の婦人に比しては其程度が甚だ低いと云はねばならぬ、單に主婦としても今の日本の家庭に於ては育兒のことから家計のことに至るまで、完全にこれを行ふて往く立派なる良妻賢母の資格ある人は實に少數である、元來婦人は内に在つて良妻賢母たることにのみ甘んぜず、廣く外に對しても、世界的博愛事業の爲めに働くの考へを持たねばならぬ、例へば支那、朝鮮、印度等の婦人が憐れなる境遇にあるのを見ては、これを他國のこととして放任せず、同性の爲め、これに同情を寄せ、これを救濟するの熱情を起さねばならぬ、これが英國の婦人であれば、同情の涙を注いで、必ずこれが救濟の手段を執り、能く其救濟の實を擧げることにつとめるのであるが、日本婦人は同情は寄せても、これを救濟する丈の熱情が無い、要するに慈善心も、愛國心も、國内的であつて偏狹に陷るの傾向がある、是が其缺點で、即ち短所である。

▲四箇の長所と三箇の短所

評議員　棚橋絢子

△長所

活潑にして進取の氣性を持する事

慈善事業に熱心なる事

諸事緻密なる事

交際廣き事

△短所

人を褒むるに吝なる事

虚譽を羨望する事

侈靡增長せる事

▲强て短所を擧ぐれば自惚心の多き事なり

評議員　鳩山春子

現代の婦人は、維新前の婦人に比すれば一般に普通學を修めし人多く、斯る人は迷信少なく、善惡の判斷力に富み、表裏あることを愧づべし、且つ幼少より學校等にて、家庭以外の人々と交際し來たれば、比較的見聞廣く、心も大きくなりて卑劣の念、野鄙の慮少なかるべし。其他、家庭以外社會の出來事に注意し來れば、子供の教育等に關して、心を用ふること深かるべし、これ其の長所の重なるものなるべし。

而して强て其の短所を擧ぐれば、過度時代に於て免れ難き弊害なる、新舊教育の差異より、老婦人及び自分と異なる境遇の人々の言行が、兎角無教育に且つ野鄙に考へられ、從つて自分を眞價以上に認識し、所謂自惚根性多きこととなり。既に自惚心多き故に、總て何人にも各幾分の長所あるものにして、自分より如何に無教育に且つ野鄙に見ゆる人々にても、其の行爲に於て、自分の遠く及ばざる點あることを悟ること能はざる也。且て維新前は、男尊女卑の習慣なりし爲め、婦人は如何なる壓制の下にも、無意識に忍耐し來りし如くなれども、現今の婦人は勇猛なる意思を以て克己するも、尚且つ忍耐の度及ばざるの觀あり、また封建時代には、一家の收入に限りありし爲め、婦人は極めて經濟に心を用ひし如くなれども、現今の婦人は學生時代より既に多額の教育費を消費し居れば、一般に金遣ひ多く、儉約の點に於て劣る所あるべし、其他自惚心多き爲め、空想を畫き、却て將來失望すると多かるべし。

▲過度時代の婦人を攻撃するは無理なり

文學士　藤岡勝二

近來は頻りに婦人を攻撃するが、實際現代の婦人は他から夫れ程攻撃さるゝ地位にあるや否や、自分には甚だ疑問である、曰く虚榮心、曰くお轉婆、曰く學者振つて理屈を捏ると、併し自分は未だ斯る婦人に出遇つたことが無いから、一般の攻撃は或は皮相の過つた觀察かとも思ふて居るのである、要するに家居にのみ甘んじたる日本婦人が、一躍して交際場裡に活動し、男女手を聯ねて舞踏するとか、二十歳以上となつても靴や袴で活潑に運動し、體操もするから、過度時代の今の婦人に攻撃の集るも止を得ぬことであるから、先づ其缺點を見出すよりは、其長所を褒めて益々其長所を助長せしむるが最上の策かと思ふ、一體日本婦人は溫和な性質であつて、自ら虚榮に奢らんとする心はないが、獨身時代の空想から、ツイ時の流行に卷き込られる位ゐのものである、實際は主婦となり母となつては着實に家政の整理に献身して居るのを見ても分る、又お轉婆とか學者振るとか云ふが、それは昔に比して總ての態度が活潑になつたのと、智育と共に理性が發達したに過ぎぬ、故に自分は餘り現代婦人の短所を見出さぬと共に、これを擧げることを好まぬのである。

▲長所より短所多し

早稻田大學講師　安部磯雄

長所として揭ぐべきことは

第一　從順にして柔和なること

第二　行儀正しきこと

短所として揭ぐべきことは

第一　判斷力に乏しきこと

第二　交際的談話に拙なること

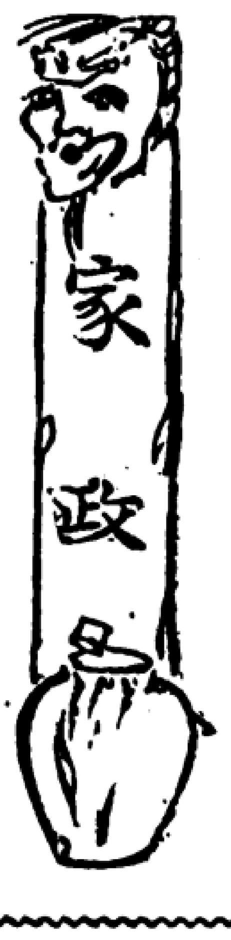
第三　男子に侮辱されても抵抗する程の勇氣なきこと

第四　笑顏を表はすべき場合にもツンとしてすまし居ること

第五　些細なることに立腹し易きこと

第六　衣服等のことに餘り注意し過ぎること、例せば道路にて行き合ひたる人をふりかへりて見るが如きこと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



我家の家政方針

侯爵夫人　鍋島榮子

私方では一人の子供が出生すると同時に定額の費用を與へ、其範圍内に於て其子の爲めの必要費を支辨することに定めて居ります、何故斯樣に致したかと申しますと、要するに儉約の本旨を實行さす爲めてあります、若し斯樣に一定の額を定めずに置きますと、華族の子供は兎角奢侈に流れ易くありまして、流行物を買ひたがります、假令ば自轉車を購ふとか、寫眞機械を購ふとか、繪葉書の高價のものを購ふとか云ふが如く、無用のものを多く求め、其請求に對して一々これに應じて居ましたなれば際限がありません、のみならず貴重なる金錢を無益に消費すると云ふ惡德をも醸すことになりますから、生れ落つるよりして自己の爲めに供せられたる費用は何程であつて、其範圍内に於てこそこれを使用するの權利があるが、それ以上は如何なることがあるも求むることが出來ないと云ふ精神を深く心の底に据へ置き、以て世に立たしむることを計つて居ります、故に男の子の如きは學生時代に於ては決して絹服は着けさせませぬ、皆綿服斗りであります、幼少の頃よりして家塾に入れて嚴格なる教育を施して居ります、女の子は男の樣に綿服ばかり着せても居られませんが、平生は成る可く質素な服裝を致させて、洗ひ張つたものも着せ、只嫁入の時に多く作くる樣になつて居ります、女の子は教育を家塾等に依托せず、自分の膝下に於て出來得る丈けの教育を施して居ります、又男子は相當の教育を受けた以上は、獨立自營せしむるとの方針でありまして、養子などには一族の外には決して遣らぬことゝなつて居ります。

音樂は當主が非常に好きてありまして、其中でも宮中に古くより傳はつて居る雅樂を熱心に學んで居られます、私共もお相手に琴を彈じます雅樂に合す琴は普通のものより少しく異なつて居りますが總てを寄せて合奏すると餘程古風で面白味があります。西洋の音樂などに音律の一致した處があると思ます。

新年と清潔

ドクトル　川瀬元九郎

吾々日本人と同樣なる趣味を有つて新年を迎へる國民は、恐らく世界中になからうと思ふ、吾々の正月は西洋人のクリスマスのやうなもので、門松を立て、お雜煮を食ひ、羽子板を突くのがお正月の精神てない、吾々は新年を迎へる度毎に舊き年を如何に過せしやを熟考して、新らしき年に於ては心を硏き、神を新たにして、一層奮鬪して吾々の天職を全うせんとの意てお正月を祝するのであらうと思ふ、吾々は靈と肉とより成るもので、精神の狀態と外界の狀態とは密切なる關係があるものであるから、新年と共にお互ひに注意して、淸潔なる國民として世に誇れるやうにしたいものである。

荒瀬千勢子畫

日本人は爪の掃除を怠る、爪を一二分も延ばして眞黑な垢を其の下に溜めて居るものが多い、子供には無論澤山ある、立派な流行の髮を結ひ、西洋風の白粉と紅をつけ、指にダイヤモンドの指環を箝めて居ながら、爪に注意の及ばぬ御婦人を集會などで見受けることが往々ある。

子供の耳の內や、耳の後の方などに黃色い分泌物や、黑い垢が着いて居る、鼻孔の周圍に綠黃色のものが凝固つて着いて居る、お菓子を食べても直に口の周圍を掃除しない爲めに、涎が口から口の橫の方へ食ッついて居る。

齒は每朝每夕は勿論、食後必ずブラシで磨くべきてある、これを怠つた爲めに齒が眞黑になつて腐つて了ふ、三四歲になつて齒の滿足なものは幾人かある、これ全く母親等の怠慢の證據てある。

西洋人は食事の前に必ず手を洗ふ習慣がある、これは誠によい習慣てある、子供に間食を與へる時も、三食前にも必ず手を洗ふ習慣をつけるが宜い。

西洋人は湯へ入らぬ代りに、下着は每週一度必ず取り替へる、相當の身分ある人は二三日て取り替へる、日本人て何時人に見られても恥かしくない下着を着て居るものが幾人かある。

ハイカラを眞似るてはないが、厭な臭いのする靴下を着けて居るのは名譽てない、また靴を奇麗に磨くのは、決して見榮でもハイカラでもない。

子供や書生が絹物を身に着けるはの宜しくないが、綻びたのや垢のついたのを着けて居るのは自慢にならない。

以上は自己の人格上最も注意すべきことてある、と思ふ。

新年をむかへて

幹事　浦　月子

はへはたてたてはあゆめと子の爲に
親のまつらんとしは來にけり

子を持ちてしる親の恩といへることあり、すべて何事によらず自ら其の境遇に至りて始めて一つ心の誠を知るべし、凡子として親の恩を思はぬはなけれど、おのれ親になりて、又更に深き心を汲みしるとぞ、病ある者は身をつみて人を思ひ、貧しきは同じ心を通はし、志を抱きて空しく本意をとげえぬ人、不足なき家にありながら人知れず心を傷むる人、親を失ひ子に先だゝれたる、數へ來れば果やなからむ、かゝる心の打ちあひたるを誠の同情とやいふらん、自らことごとく其の境遇をしるはかたし、されどおのれ親を失ひては、人の同じ悲みにそふる涙も誠の心より涌きいでゝ人事とは思はざるべし、同じ思ひやりにも深きと淺きは

水野千代子畫

まぬがれぬ業なりけり、さればかの過ぎし日露の戰ひに、國民こぞりて熱き誠を捧げしも、つま子はらから何れか其の戰場の人ならざるはなく、同情の心深かりければ、めざましき內援の美擧をも顯はしゝなり、世に同情ばかり美はしきはなし、此美はしき同情を如何になしてか委わしく知り得べき、只二つなき誠の心にこそ千萬の心をも汲みしる事はうべきなれ、其の源をしらずして支流を知る事如何に難き業ならん、右に流るゝものは左をしらず、前に明るきは後にくらし、其の本をしりて始めて四方に明らかならざらんや、若し支流を追うて意識のかたよく方に情をよせんか、終にあやうき淵に陷る事なしとも限らず、彼の小說などによりて身をあやまつたぐひにこそ、誠にうるはしき同情の心を通はさんには、それが慰めのことの葉にも暗きより明るきにまどへるより、正しきにと共に平らかなる方を選み、樂しき道に進み行かん事を勤むべきなり、とてもうき事の絶え果つべき世かは、さても人によする同情はかくてありなん、おのれもし逆境にあひて悲苦憂愁の雲に鎖され、花鳥風月徒らに涙の種ならざるはなく、朝の露に世をはかなみ、夕べの風に心を亂し、誰かこの苦しみをしる人ぞと幸なき身をかこちては、天を恨み地に悲しむ、かゝる時いかなる同情を求めてか慰まん、他なしおのが心の源を尋ね〳〵て深き同情の光に會はんには、世に淺ましきは人を賴む心なり、他人の慰めを待つ心なり、誠の親はらからなればとて肉體を異にしては怡びをこそ分つべけれ、などて愁をきする事の本意なるべき、されど共になげくべき人のあらんには、いさゝかも慰むとをえて、互に一時の心をだにはらしぬべし、こも時過ぎなば又獨苦しき悶えに月日を送りて、去來限りなからん、終に一人苦しみて終ふべきか、否々逆境にあひては、人に生れしかひなきなり、百尺竿頭一歩を進めなば、復活して憂の雲の晴れ渡る事をしらん、天地萬物みな我に同情ならざるはなき物を、物皆新らしき年はかへりぬ、この年の始をおのが心に顧みて、一年のもとゐをさだめ、やがてとこしへに樂しきを願ふべきなり、浮世の音雜然として騷がしき中に、眞如の月の澄み渡れる、いかにたふとき光ならずや、嗚呼。

身にかゝる浮世の雲の重なりて
心の月をみかくされしさ

第四十六作歌募集
題　梅
選者　佐々木信綱氏
規定　一人一首繪葉書に認める事
優等の作歌は二月五日發行本紙上にて披露すべし

第卅七回短文募集
題　昨年中の本紙にて何を一番愛讀したるや其題目と感想を叙せ
規定　百八十字限カナ附用紙葉書
優等の作は二月五日發行の本紙上にて披露(一等繪葉書五十枚進呈)

第廿四回俳句募集
題　初午
選者　編輯局同人
規定　一人一句繪葉書に認める事
優等の句は二月五日發行の本紙上にて披露すべし

第十七回新詩募集
題　隨意
選者　編輯局同人
規定　成るべく短きもの用紙葉書
優等の作は二月五日發行の本紙上にて披露すべし

締切一月廿日限り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

開年の御吉慶萬里同風芽出度申納候、先以各地會員の君達には、益御健勝御齡を重ね被爲候段欣喜の至りに御座候、我れ等一同亦無事新年相迎へ候まゝ、御心やすう思召され度候。扨て本年を以て戰勝後平和の第二年に入ること、相成り申し候、過去一年を顧れば、國家各方面の經營、社會百種の事業は、孰れも旭日昇天の勢を以て勃興發達し來りて、誠に戰勝後の平和に相當せるの成績を顯はし候は、國家の爲め大慶至極に御座候、是れ畢竟國民往邁の精神努力の氣根の然らしむる所に外ならずと存候。我が愛國婦人會も、亦其間に在りて益々國民の同情を博し、四十五萬餘の會員は、五十六萬と相成り、贊助員を計算せば殆んど六十萬に達せり、從て本會の目的たる軍人の遺族及び癈兵の救護に一般の進境を見ること、相成り候は、大勢の然らしむる所とは云へ、全く總裁閑院宮妃殿下の難有き思召を體して、會員諸氏が能く其實行に勉められたるの結果に有之候。何卒本年は兼て發表せられし會員大募集の計畫をば是非とも實行完成を期するの覺悟にて、御互に奮發勉强し、充分本會の趣旨を貫徹致度ものに御座候、先は新年の御祝詞まで、めでたくかしこ

明治四十年一月一日

愛國婦人會

監事　男爵夫人　三井苞子
同　公爵夫人　九條惠子
理事　子爵夫人　岡部坻子
同　子爵夫人　谷玖滿子
同　侯爵夫人　山内禎子
同　侯爵夫人　鍋島榮子
同　侯爵夫人　大山捨松
同　前公爵夫人　毛利安子
同　公爵夫人　島津田鶴子
同　前公爵夫人　近衛貞子
同　公爵夫人　德川泰子
同　公爵夫人　一條悅子
會長　公爵夫人　岩倉久子

愛國婦人會支部職員
愛國婦人會々員　御中

◉新年互禮會　例年の如く新年互禮會は一月九日(第二水曜日)午後一時九段坂上偕行社に於て擧行の事に決定せり

◉有功章授與　去月廿日閑院宮御殿に於て左記の四氏に一等有功章御親授あらせられたり

伯爵夫人阿部篤子　男爵　後藤新平
男爵夫人後藤和子　韓國本部長　鶴原誠子

◉三日付囑托　支部長及顧問囑托左の如く去月廿三日付囑托せり

北海道支部長　河島良久子
同　顧問　河島醇
茨城支部長　大塚富世子
同　顧問　大塚貢
福岡支部長　寺原松子
同　顧問　寺原長輝

◉遊說員消息　栃木支部內に出張せし本部遊說員野中やち子氏は去月二十一日歸京せり又大阪支部の遊說を終へ福井支部內に遊說せし本部遊說員富樫まき子氏同支部內を去月十四日終へ肥前唐津奥村刀自の許に至りて越年せり

◉堀內相談役より通信　在韓國平壤にある本會相談役堀內文次郎氏より左の如く通信し來れり

東京麴町區上二番町十四番地織田昇次郎氏は其令閨壽々子氏は結婚後二十五年の祝賀の意を表せんとて金貳千圓を滿韓駐劄軍の傷病兵に寄贈せられたるを以て步兵第五十八聯隊は分配せられたる金額を直ちに各傷病兵に贈りたるに該厚意に對して傷病兵は勿論全隊兵士も之を聞き感謝流涙するものありき

各地支部狀況

◉東京支部　本所區軍人家族授產會解散につき發企人栗塚龍子植村誠子の二氏より事業用器具器械一式及之れが運轉資金として金參百圓寄附せられ尙該事業場に充つる家屋なきを以て本所區花町所在の元本所小學校花町分敎場建物一式を無代下附出願中の處同區長より本所區軍人家族授產婦人會の同區に竭せし功勞を表する爲め其事業の繼續者たる支部に對し無償寄付すべしとの指令ありたり

◉京都支部　乙訓幹事部に於ては卅七八年戰役の際會務に盡力せし功勞者慰勞會を此程同長岡村に於て開會せり支部よりは中山副長參會先づ幹事部長森本とよ子氏の挨拶中山副長感謝の辭幹事六人部一技氏其他職員の接待能く行屆きて何れも晝餐會に於て歡を盡し尙將來會員を盛んに募集せん事を誓ひて散會したりと云ふ

◉愛媛支部　十一月十一日新居郡幹事部に於て發會式を擧行したるに參會者無慮七百餘名にして左の順序により靜肅に擧行せらる一午前十時參會者入場　二幹事部長開會の辭　三幹事總裁殿下尊影の覆を徹す　四幹事部長令旨奉讀　五幹事部長の祝電朗讀　六幹事部長幹事部職員並に會員の名簿を呈す　七支部長答辭　八支部及幹事部顧問祝詞演說　九幹事部長答辭　十支部長より本會の功勞者へ謝狀及物品授與　十一來賓祝詞演說　十二會員總代祝詞　十三幹事總裁殿下尊影を復す　十四支部及幹事部職員事業報告　十五幹事部長閉會の旨を告ぐ　十六參會者退場の順序にて靜肅の中に其式を了れり式後遺族及癈兵の內參場したる遺族百五十七名癈兵五十六名に對し支部顧問の慰問の辭會員には會務擴張の必要を演說し遺族癈兵へは酒饌を供し會員には辨當を贈與したるにより孰れも滿足の意を表せり此擧に依つて新會員三百餘名を得たり

◉石川支部　同支部珠州郡幹事部に於ては昨年十月十五日より軍人遺族癈兵生業扶助として同郡飯田町に於て麥稈眞田傳習所を開設し既に所定日數の傳習を終へ十一月十六日同町公會堂に於て終了證書を授與したり其人員四拾七名傳習中製造したる眞田は三種にして總計百反許を製造したるに何れも成績良好なり斯技をして部內に普及産出せしむるの施設を爲し更に十一月十七日より傳習終了者廿三名を撰拔し各村に派出傳習せしむる敎師養成の目的を以て日數三十日間再び傳習所を開設したり

◉德島支部　軍人遺族癈兵救護資金醵集の目的を以て去月九日德島公園內滴翠閣に於て慈善音樂會を開會せり谷口支部長は開會の辭及演奏者來聽者に挨拶を述べ開演に移る當日の演奏者は縣立師範中學校高等女學校職員生徒及斯道に堪能なる法師有志會員等百數十名出席し支部役員は各々部署を定め會場の整理に任じたり當日來會者一千餘名に達し入場料寄付金貳百五拾圓餘に上り盛況を呈したり

◉岩手支部　同支部に於ては生業救助の一方法としてリンネル加工業傳習所を開始したり今其方法を記さんに支部內五ヶ所に傳習所を設置し其事業費四千九百貳拾八圓八拾四錢の內支部の救護費現在金七百貳拾圓其他三十八年八月軍人遺家族貧困者へ衣服給與諸費として縣知事より交付せる金員の殘三百三拾六圓及び縣知事保管の軍人救護會資金部より三千八百七拾貳圓八拾四錢の補助を受け開始したり然るに盛岡傳習所の如きは九月十八日を以て開始せしに志望者甚だ多く成績頗る良好なり尙盛岡傳習所に於て先づ敎師を得可きものを養成し三ヶ月の後に他の四郡に開始する計畫なりといふ

◉福岡支部　同支部に於て經營せる軍人の孤兒及癈兵の貧兒保育事業補助の爲め帝國軍人援護會殘金資金中より金五百圓補助の儀同縣知事より指令ありたり尙同縣知事の附帶命令によれば一本年補助金は事業費に對し下附するものなるを以て直接其事業費に支出する外費消し得ざる事二補助金を支出せんとする場合は豫め知事の承認を得べき事三每年二回事業の成績を詳具し報告すべき事但各郡市別保育人員及保育方法同事業費の支出を見るに足るべき書類添付を要す

恭賀新年　會計監督　佐藤正

恭賀新年　在唐津　奥村五百子

恭賀新年　愛國婦人會事務員一同

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小說

新曙光

三島霜川

夜は、明放れた。旭は赫耀として、まんまろく、悠然として山の端に差登ッた。空は急に映々しくなッて、深く澄渡ッた其處には、淡いミルク色の雲が配置ッてゐる。最初紫色をした山々は次第に紫立ッて來た。家の屋根、丘の木立、橘や籬や、田圃や、枯薄や、稻株に、赤々した影が、ちら〳〵して、雲と相映じて眼映しいやうに燦爛する。鳥も囀り出した。全く、眼に入るもの、耳に聞くもの、爽に華やかに、のび〳〵して輝やき渡ッてゐた。其氣持の快さ！あら美しき日の光よ。私は初日を見んものと、薄暗らいうちに家を出て、愛犬ジアックと共に今此田圃に立ッたので有る。

凝結した水蒸氣は、鉛色の霧となッて、村を繞ぐり、田面を渡ッて、林を籠め山をぼかして、そこはかとなく行渡ッてゐる。俳諧では是れを初霞といふ。

突如に、私の行手に當ッて天氣の和靜を感謝するやうに、

「好い天氣だ！」

と悦樂と滿足とに溢れた聲がした。

其處には、畦道に沿ッて、疎らな木立に圍はれて、さながらにスケッチを見るやうな藁屋が有ッた。古い、併しながら洒落れた、小奇麗な！屋根からは、雜煮を煮る煙が蒸上ッて、流れては、のろ〳〵と木立を掠めて、大氣の中へ採み込まれる……其處にも、初日の光がきら〳〵と映じて、虹の様な一種鮮麗な光を放ッてゐた……その光を浴びて、さも榮あるやうに、靜かに微風に揺られてゐる國旗！日の丸の紅も鮮めて、古い國旗では有るが、何となく、尊げに見られる。

其筈か、玆なる息子は、去年の夏中、滿洲の野に、名誉の戰死を遂げたのであッた。

ジャックは今、その藁屋を目懸けて、地を嗅ぎながら、尻尾をくるり、捲上げて、徐むろに畦を傳ッて行く。私は、落葉に埋もれた下を流れてゐる小川の幽かな清らかな水音に耳を傾けながら歩いてゐた。

そのうちに、ジャックは藁屋の蔭に見えなくなッた……かと思ふと、其處から、ばさ〳〵、ばさ〳〵と都合七八羽の鷄が、あたふた、屋根へ飛上ッて、各自に首を反らして啼いてゐる。

「此ン畜生ッ！」

と木立の中に、陰貪な大きな聲がした。

その途端にジャックは狼狽へ切ッて飛出して來て、疾風の如く田圃路を躍ッて行く、其後から棒を持ッて、婆さんがよち〳〵と出て來て、腰を伸ばして屹と田圃を眺めた。が其れで氣が濟むだのか、婆さんは腰を折ッて、家へ引ッ返さうとして、ふと私の姿を見て狼狽へながら、大急ぎで被ッてゐた手拭を取ッた。そして、へたばるやうに長い叮嚀な辭儀をした。

其れには應へず、私は大跨に老婆の方へ突進した。腹が立ッてならなかッたから、言葉も刺々しく頭ごなし、

「おい婆さん、何をするんだ。ジャックが何をしたんだ。」

婆さんは、のべつにお辭儀をして、

「何とも、はア申譯ねえてがんさ、貴郎さん許の犬とは知ンなかッたものだで……勘辨のうさッしやりませ。鷄が、えら慌てたもんだて、ぶッ魂消たて、其ンで、その何てがンさ。……狼狽へたもんて、つい、その。」とへどもどしてゐる。

私は意地悪るく「何か、その鷄が殺られたのか、それとも……。」

「いんね、殺られもどうも爲なかッたがね、えかく、威赫かされたもんだて……」

「然うか、殺られたのなら錢を拂はうと思ッたが……。」と皮肉に出かけて、ふと氣が付いた。名誉の戰死者の母に向ッて、言葉が過ぎると思ッたので、「ては好かッた、ジャックは中々悪戯をするからな。」

婆さんは正直だ！私が皮肉に出掛けたのを知らず、

「何んの、錢なんか要ンねえさ、私、早く見付けて、ぼいこくッて呉れたて！時にお芽出度うござります。天い天氣て、眞ンにはア、結構な元日でござりますよ。」

私も心の角を折ッて、

「眞個だね。日本晴と謂ふ天氣だが子供ばかりぢやない。お互に大悦びだよ。」

「然うとも！然うとも！今年もまた、豐年て好い取穫がしたいもんてがすよ。」

といふ。あはれ、渠女は、日和の好い元日の嬉しさに、息子の戰死したことさへ忘れて了ッたのか。その顔には心から樂しい笑顔が浮むでゐた。

五十戸の村は殘らず、雨戸が啓けられ、而て何の家の門にも日章旗が樹られた。村はなんとなくがや〳〵して來て、私の影は長く、黑く、うねりを打ッて、斜めに畑の上に落ちて居た。

日は見てゐるうちに、高く高くなッた。

東西名婦傳

ドロセア孃

人見東明

ドロセア孃は詩人ウォーズオースの令妹である。孃は篤實溫厚にして、趣味性に富み、又秀でたる審美眼をもち兄君ウォーズオースの事業に對して、多大なる尊敬と同情とを持つてゐた。

ウォーズオースは千七百七十年四月七日英國のカムバーランドに生れ、後長じてケレブリッヂ大學に入りて、法律學を修め、幾年かの後業を卒へて、社會に出た、丁度其の時佛國革命の最中だつた、彼れは學校服を捨てるや否や、之れを軍服に更へて、軍に投じたのである。然れども純潔なる彼れの到底永く滿ゆべきに非らず、遂に失望と煩悶とを抱いて祖國に歸つた、其の後軍人に成らんとして果さず、代言人たらんとして失敗せし彼れは、さる共和主義の雜誌を幹するに至りしも、之れ又失敗の歷史を繰り返さざるを得なかつたのである。此如くして多感なる我が詩人は失敗に失敗を重ね、蹉跌に續くに蹉跌を以てし、懊惱又煩悶、一日として心快からざりしかば、ドロセア孃大に之れを憂へて、この絕望の兄をして、僅かなりとも希望の光明を仰がしめんとの心から、平素作り爲せる作品を集めて世に問はしめたのである。けれども世間はこの處女作に對して何等の批評も試みなかつた、玆に於てか詩人の煩悶頂點に達し、詩人たるの天職を擲んと迄したのである。けれども尊ぶべきドロセア孃は、世が詩人を顧みざるの時も、依然として高き愛の神である、孃は兄を助けてあらゆる慰籍と、あらゆる同情の忠告とを與へて止まなかつたのである。

千八百二年に詩人はメリーハッチンソンを妻に迎へ、千八百十三年彼のライダル山に退隱し、千八百四十三年桂冠詩宗の榮譽を荷ふに至り、彼の無名の年少詩人は一躍として人類の覇王となつた。が遂に八十歲を一期として、千八百五十年四月二十三日に永遠不歸の旅路についたのだのである。ドロセア孃は後ち三年にして兄を追ふた。

此の間決して短しとせず、又得意にのみ處したのではない。一度びは職を捨てんとし、再びは生命を擲げうたんとした、詩人の前半生は實に慘憺として名狀すべからざるものがあつたのである。其れにも係らず、千載不朽の大偉業をのこすに至つたのは、詩人の偉大なる人格にも依るのであらうが、予は可憐なるドロセア孃を忘れる事が出來ないのである。詩人が天職を擲げうたんとせる時、兄の膝に涙をこぼしつつ忠告したのは何人だ、又は絕望の胸を水中に葬らんとした時、兄の手を把て泣いたのは誰だ、家事一切を引受けて、內顧の憂なからしめ、悠々として詩作に專念從事するの餘地を與へたのはそも誰だらう。云ふ迄でもなく、可憐なるドロセア孃の賜である。ウォーズオースが今日の芳名はドロセア孃があつたからだ、若しドロセア孃にしてなかりせば、今日のウォーズオースは到底望む事が出來なかつたのであらう、ウォーズオースに依て得る我等の幸福の中ばはドロセア孃の賜である。我等はウォズオースに感謝すると同時に、可憐なる無名の偉人ドロセア孃にも感謝の意を表せなければならぬのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供くらぶ

新年宴會

江戸　靜川

羽根突く音、紙鳶の響弓！絹禮帽に、大禮服に、白襟紋附に、振袖に、戸外は目覺むるばかりに美しく、また勇ましい、元日の朝の光景や。梅子さん所のお玄關には、錦襴の鼻緒のすがッた元祿草履や、歩けばコロン、シヤランと音のする、鈴の附いた深堀下駄や、美しい、可愛らしいお履物がお行儀よく列らむで居る、算えて見ると十人ばかり、年賀のお客様は云はずと知れた梅子さんのお友達、お下髪に兒髷。奥のお座敷では今お屠蘇が始まッた、樂み多き小なる新年宴會！梅子さんは御主人役、皆さんにお屠蘇を進めて嬉しさう。松子さんはお盃に梅の蕾のやうな唇を鳥渡つけたばかりて、ほんのり紅くなッた顔を、金地に松と日の出の繪のあるお扇子て煽ぎながら「皆さん是れから御一所に君ケ代を唄ひませうか。」と云ふと「何うぞ。」と梅子さんが頼まれる。

「ちや唄ひませう。」と皆さんが立ち上がる、开處へ音樂學校を去年優等の成績で卒業せられた、琴子さんと仰しやる、梅子さんの姉さんが、裾模様の三枚襲、高髷に美しうお化粧りをして出て來られて「皆さんお目出度う。」と云はれると、お目出度う、お目出度うと皆なが周圍を取り卷いて「姉さん是れから皆なして君ケ代を唄ふの、ですから姉さんオールガンを彈いて頂戴な、ねえ、姉さん、後生ですから彈いて頂戴な。」と右左、袂を取ッて强請みますと、琴子さんは嬉しさうな笑みを湛えて「彈きませう、彈いて進げますから皆さん聲を揃えて能く唄ふのですよ。」と軈てオールガンに對ッて彈き出しますと、梅子さん、松子さんを先にして君ケ代は、千代に八千代に、さゞれ石の、巖となりて、苔の蒸すまでと三度合唱し、床の間に紫の幕を絞ッて掲げ奉れる兩陛下の御眞影に向ひ、敬しく頭を下げました。此時お玄關の方に當ッて、鼕々たる鼓の音が聞え出す、德若に御萬歲、才造のお道化た顔を見せうと、羽子板抱くやら、毬を袂に入れるやら、急いで此所を出て行きました。何んとまア羨しいほど間の宜い、優しい子達ばかりてはありませんか、斯んな方が成人なると、必然、慈善の事業なんかに身を献げる、立派な貴婦人になれるのてありませう。（みはり）

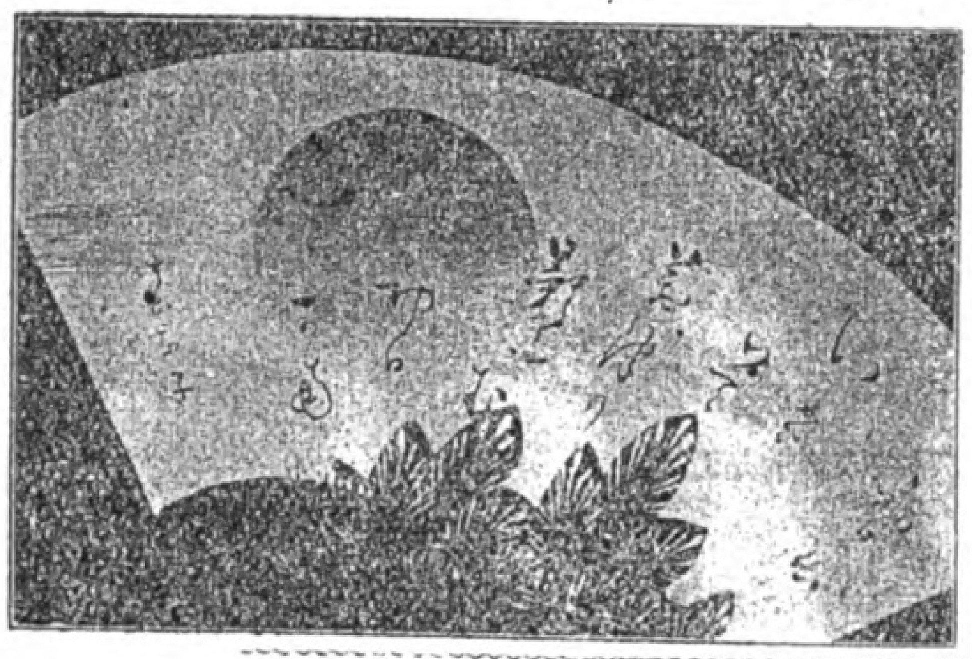
短文

▲彩雲（一等）　佐賀　杠　美舞子

何時に變らぬ鷄の聲ながら、今朝は何んとなく聲に活氣が滿ちて、さうして我等に奮い起てと云ふ、神の警めの詞のやうに聞きなされて、云ひ知れぬ心地好さを覺ゆるのである、軈て若水汲む隣家の車井の軋りに、後れじものをと起つて雨戸を繰れば、今さし昇る初日の光り、燦として空に七彩の雲漂ふ、嬉しき哉この新曙光！

▲初日（二等）　愛知　山本久子

見渡すかぎり刈田の面水涸れて、行く手の道に霜深し、歩むともなく川の邊りに出づれば、傍へなる水車小屋の軒低く國旗立てられて、今朝は車も休みなるよ、東の空石卷の山のあたり、雲淡紅にいろどるかと見れば、軈て眞紅と燃へて、麓の村に射下す金矢幾筋、ぬつとして雲をはなるゝ初日の光りあまねきて、鎮守の森にひびく太鼓の音のゆたけさよ。



▲麗光（三等）　福島　横川千賀子

おしなべ何處の里も仰ぎ見るらんとしの初めの初日の出、今昇るらし、あかねさす東の山の松が枝より輝きそむれば、世は新らしき光りを浴び、人は其御惠みにあふ、尊さかな其御光り、麗しき哉其かかやき、仰ぎみれば心の隅も照らされて、實にも神々しき今朝の初日や。

▲三の光　名古屋　名取照子

車とゞめて門松をくゞりたる人四人五人主は大禮服に今參内の調度とりどり。奥まりたる一室、むろ咲の紅梅生けて、緋房かけし籠の鶯に朝の飼やり給ふ姫君が花のふり袖、まだき春もたちけり。こゝもと母子二人が、九尺の門に形斗りのしめはへて、ひとゝせの元日をほぐや幼き君が代の一ふしに。

▲祝ひ膳　福岡　松村壽賀子

お正月といへば何となく心嬉しきに、ことかしこの友より美しき繪端書に年の賀を書きそへて來るこそ、こよなう嬉しきものなれ、或親しき友よりの祝詞の末に、今年の元日は祝の膳一つましたり、坊か孃かあてゝ御覽など認めあり、扨は彼の君にも早母様となり玉ひしかと、昔の偲ばれて、いと〳〵なつかしうなむ。

▲都の友に　埼玉　森田竹子

新年を賀し奉り候、偖も御邊如何に御賑々しう、友垣數多より集ひ給ひて、種々の御遊びさへ御樂しうおはすらんと推しまゐらするだに御羨ましう存じ上候、當地は舊暦を用ゐ候へば、年立てどいと淋しう、日の丸のみ旗僅に軒に翻へるのみにて候、あはれ北風寒き窓の下、獨り都を偲ぶ人あるを思しやらせ給へや、賢。

▲曙光　青森　吉田安子

曙告る鷄の聲昨日に變らねど、紫にかすめる山邊去年の雪まで自ら新まれる心地ぞする、隣りの家にては早や戸を繰る音のしつ、近く車井戸の軋る若水汲めるなるべし、丹紅を流せる如き雲の峯押分けてうら〳〵とのほる初日影、今年の望うらめでたき童等が萬歳の響き、やさしき小女等が聲して君が代唄ふを、あかづ思ひてか、雀の千代八千代とことほぐも、榮へ行く御世のためしなるべし。

新体詩

▲若水（二等）　青森　茂呂その子

竹の扉の初とりや
　旭影にほつと梅薫る
顔見合せて姉妹が
　微笑む笑くぼこぼれ水
流れの筧清らかに
　汲めども盡きぬ縁かな
結ぶ双手の玉雫
　嬉しさ餘る千代の數
注連の小桶に挿みたる
　松の葉色と永久に
濃緑髪の變らじな
　此の面影も其儘に

▲元旦雪　甲府　林友惠子

一

木には咲きけり　無香の花
地には敷きけり　眞白銀
塵の世界も　さながらに
天つ御國と　かはりけり

二

朝日の光　雪に照り
瑞氣は四方に　満つるなり
千代をさへづる　村雀
萬歳歌ふ　人の聲

三

惠みあまれき　大御代の
姿とぞ見る　今朝のさえ
人の心も　おのづから
清くなるらし　此雪に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

謹賀新年
愛國婦人發行所

謹て新年を奉賀候

東京　浦月子
大阪　富永才子
埼玉　森田竹子
京都　花輪余志野
東京　中隈富士子
群馬　伏島たき子
東京　四屋保子
埼玉　水野淑子
東京　長鹽錫子
静岡　萩原さだ子
福岡　松村壽賀子
東京　岡田春子
山形　阿部さる子
群馬　木暮千代子
愛知　石川類子
北海道　西久子
山口　末田貞節子
青森　田島正子
長野　高橋きよ子
京都　金澤收子
仙臺　渡邊道子
仙臺　渡邊作子
長野　金野やほゑ
東京　三宅ひさ子
岡山　武田須磨子
三重　荘司種子
東京　爪生保子
長崎　葛原梅香
静岡　青木絹子
東京　小嶋幹子
京都　渡邊豊子

洋織物　裁縫物
毛布　敷物類
何なりとありまいと御望の品は御尋下さい

農産定價表（無代進呈）
農産種苗及木類種子苗
農産林産觀賞植物數千種中細密なる木版畫百餘を入れ是に解説と代價を附したり御入用の方へ無代にて進呈す
内外農産種苗問屋
農事月報發行所
耕牧園
東京内藤新宿停車場際

特許
日本巻紙
ミシン半切罫紙代用輕便
小カイラズマッスグ切レ實用上便利
販賣及地方特約店募集
御申込ノ節ハ郵券貳錢送付見本規則書送ル
京都市高瀬町高辻南入
閣晋専賣所本部

日本元祖西川洋琴
高尚なる音樂の嗜好は
家庭の和樂を作る基なり

宮内省御用東京音樂學校御用
横濱市日の出町二丁目（電話八四一一番）
西川オルガン及ピヤノ製造所
東京販賣店
十字屋樂器店
東京市銀座三丁目
關西代理店
武内樂器店
大阪市東區順慶町四丁目
《西川洋琴の聲調は舶來品に劣らずと專門家の讃詞を得たり、定價表は御申込次第進呈す》

（ラクダ印）

ラクダ印麝香石鹸
（麝香石鹸）
ミレ
石鹸は高貴なる麝香に優すべき香料を多量に含むが故壹ヶ使用せば其香氣身体に充ち湿うつり香いたし五日間は鎮静とかほりを失なはざる効力は舶來品にも未だ見ざる一大特點を有す
○定價大形廿錢　小形拾錢
熱心勉強なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり
近來類似品有「ラクダ」印に御注意
東京本石町三丁目十八番地
井上太兵衛

一月一日二日三日四日は年玉進呈仕候
日本第一の大勧業場
本場の特色
あらゆる物品を最も格安に正札附にて陳列販賣し市内八ヶ所に配達致し大抵の物品は切手を發賣して館内執事の店にて御引換

謹賀新年
尚希當年之愛顧
北辰社牛乳は最も滋養に富む
明治十九年二月十四日一等褒賞を受く

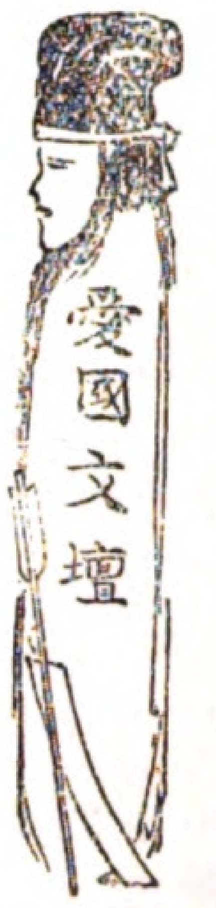
北辰社精製のバタは味佳良
明治十九年三月十四日一等賞を受く

謹賀新年

種々店内に陳列致し置き候間御一覧被下候樣奉希上候

御用の節は電話又は（ハガキ）にて申被聞候へば直ちに店員御伺ひ申上べく候
東京市神田區須田町六番地
中村時計店
電話本局一〇九〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



初日の出

岩野泡鳴

遠くつらなる
浪の面を、
今ぞあか〳〵
日の御かげ。

しめれる砂の
足もとに、
あを淵破る
ひびきあり。

姫君（プリンセス）

片上天弦

『姫君』と申すのは、英吉利近代の大詩人といはるゝテニズン卿の名作の一つでありまして、可成長篇の物語歌になつて居ます。標題の示す如く一個の姫君がこの一篇の女主人公でありまして、所謂佛蘭西のルウソウ以來、久しく社會上の宿題となつて居ります、婦人問題を歌つたものでありまして、斯の點ばかりから見ましても、隨分おもしろい、又有名な作なのであります。

先づ物語の略を申しますと、時代は、作の上では中古時代、封建時代といふことになつて居まして、或る城持の大名に、一個の息女があります。この息女が即ち本篇の女主人公の所謂姫君でありまして、この姫君には、其の幼少の折から、豫て約束のある許嫁の王子があります。然るにその姫君は、男女ともに平等であつて、畢竟同樣の自由を得べきものであるから、それが爲めには一般の婦人を敎育して行かねばならぬ、妾はその重大な事業に一生を献げる覺悟であるから、お約束ではあるが結婚はお斷り申したいとあつて、王子との許約を履行しやうとせられない。そこで王子の方では、一計を案じて、二人の腹心の從者と共に、全然女裝をせられまして、その姫君の主宰してゐらるゝ女子大學の學生となつて、婦人の外一切構內に入るを禁じてあるその大學の內へ首尾よく入り込むこととなつたのであります。併しながらもとより永く隱せ了せるものではなく、間もなく喰せものであるといふことが目著けられて、王子以下三人の違法者は、健かに責め罵しられて結局放逐せられます。恥辱を蒙つて王子は還つて來られますると、王子の父王は大層の御立腹で、この上は是非に及ばぬ、腕づくで約束を履行さす外はないとあつて、やがて件の姫君の父王に向つて、戰爭を挑まれるといふことになります。

中隈富士子

茂呂その子

紅美舞子

併しながら、わづかに婚約の行き違ひばかりのこので、可惜双方の勇士を多く了ふといふも上乘の策ではないから、これは双方から各自五十人づゝ選り抜きの武士を出して、その五十人づつの武士だちに立ち合はせた上で事を決することにしたら如何であらう、それが可からうといふことに談合が著きまして、偖愈々立合といふことになりましたが、王子方は、今度もまた運拙くして、王子自身刀創を蒙つて、結局負け軍となります。

負傷者はひとり王子ばかりではないので、差當り女子大學が假の赤十字病院といふことになり、女學生達の多くは一時各自自分の家へ引取つて、其跡へ負傷者を收容するといふことになりました。王子の看護は差しあたつて姫君の役目で、姫君はその假赤十字病院に留まつて、いろいろ心を悉して介抱をせられ、病床の側で、日頃愛誦せらるゝ詩歌などを誦んで、王子が病床の徒然を慰められなどします。茲に至つて、すでに姫君の心は變つてゐるので、もともと王子を厭うて結婚を拒まれたと申すのではないので、唯自分の事業のためにといふのでありますから、傷を蒙つて病床に呻吟せる王子を看護してゐらるゝ中に、自づから天性の優しき美しき愛情は湧き立つて、やがて姫君はその大學敎育事業を棄てて、病癒ゆるとともに、芽出度く王子と婚儀を擧げられるといふところで、この一篇の詩は畢つて居ります。

この一篇の詩は、取りも直さず殆ど婦人問題の全體に就いて一種の解決を試みやうとしたものでありまして、一面には婦人の高等敎育問題、又婦人の社會的事業の問題と、一面には婦人の生命たる愛情の福音とを說かんとしたものでありませう。全體の主旨は、婦人が全然他の事を顧みないで、男子の優勢なる位置を占むるに反抗して、對等の位置を作るために全力を注ぐといふよりは、結局正當の結婚に依つて、愛情の滿足ある生涯に入る方が、婦人自身に取つて、はた又人生全般のために、幸福であるといふことであります。婦人の高等敎育、婦人の社會的事業といふことは、勿論愛情を弘く深く布く上に、其の準備として缺くべからざることである、現にこの作の中でも、病傷者の看護といふことは、立派な婦人の社會的事業の一つでありまして、婦人がこの方面に力を用ふべきであるといふ作者の意であらうと思はれますが、斯くの如き事業に依つて、婦人の社會上の地位を男子と同等にするといふことも、急進主義では、この姫君の女子大學事業の如く失敗に歸するのであるから、すべて社會上のことは漸進主義で行かねばならぬ、婦人の高等敎育、社會事業の如きは、勿論必要であり、且つ又その特殊の長所を發揮する上に於いてなくてはならぬものであるが、結局女性の生命は愛情に在る、愛情のない人生は完全なものとは言はれぬといふやうな意が、その辭句の外に現はれてゐるかと思はれます。就中その中間に所々狹さんである小唄には、絕唱と申すべきものが少くないのであります。左に『かひなき淚』と歌ひ起して、愛なくして過ぎ行く徒なるわが生を歎き悲しむうたの一節を譯します。

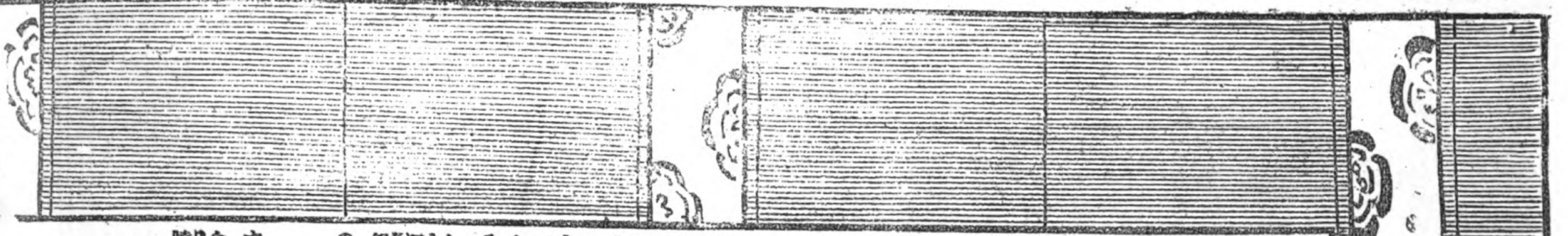
あけやらぬ小暗き夏の黎明に
亡せゆく人の目に見れば、
窓はしづかに光さし
夜もほの〳〵と白みそめ。
なかばは夢の百鳥の
夙晨うたふ朝のうた
臨終の耳にきくばかり
あゝかなしくもふしぎなる。
げにさばかりも往にし日の
かなしくもまたふしぎなる。

松竹梅

富永才子

妾九歲の春を迎へし時なりと覺ゆ、元旦の拜賀式に列ならんとて朝とく學びやにのぼりしに、式場の前にいと見事なる生花ありき、もとより幼な心のたゞ美しとのみ見てありしが、やがて師の君見えましてのたまふには、御身は此花をいかに見るや、しるらめど、こは松竹梅とてめでたき例にひかるゝものなり、其故は、松は操の正しきもの、竹は心の直きもの、梅は烈氣をふくむもの、みなそれ〴〵にすぐれしふしのあればなりけり、いかでおもとらも此三の木の心を心として、學びの道をはげまれよ、とねんごろにもさとし給ひしことあり、さはいへおろかなる身は、いつもおくれかちにて、廿ぬをすぐる此年まで、何ひとつきはめし道のなきかやさしけれども、たゞ新年としいへば、かならずこれを思ひ出づるにより、せめては心のいましめにもと、ほぎことにかへて、かくはかいつく。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



わが爲めには追想多き除夜の鐘や、去年も西の京にて聞き、今又同じ都に同じ音を偲ぶに至るわが運命の奇しくもあるかな。訪づれて一夜を語り明すに相應の友もなき身の、膝頭を抱いて徒らにこの年を送らむもうしとて、遂に寒さを忍んで六條を東に出づ、霜に冴へし都大路を下駄音高らかに刻み行けば五條寺町の邊を往來う群集、宛ら路を埋めて沸くが如し、その人人の面の皆、はや舊き苦しみを忘れて來ん年の希望に輝けるも可笑し。

○

遉がに京なれや、年逝く夜の大路小路を擧げて、空もかぎろうばかりなる燈火の影、穩やかに搖ぐ光美しく、波うつどよみはいと樂しげに、いづれも手に〳〵火繩打ち振る、こはこけら詣りとか云ひて祇園詣をなすものとか。われは雜閙を逃れ出て、たゞ一人清水の石段を上りぬ。暗き空に影高き五層の塔、冴え冴へし月の蒼光を浴びて、銀色の廂に星寒く凍へし時、鐘の音靜かに洛中に渡りぬ。

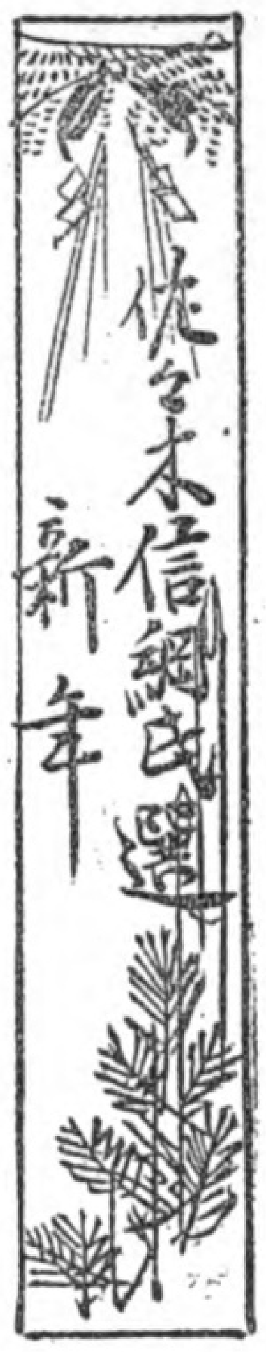
○

岡崎の丘に立ちて初日影を拜す、濃紺の比叡は次第に褪せて、やがて紫紺の烏帽子形美しく、曉色は刻々に輝き初めぬ、一分一秒、麗はしき希望の光は漲り

初日

松原生

佐々木信綱氏選　新年



天　名古屋　梅村八代子

こみどりの海うつくしき朝あけに神代を見たり年の初そら

▲評　海の色濃緑に澄みて、初日うるはしくさしのぼる海邊の元旦、まこと天地はじめてひらけし神代の面影もうかびつべし。

地　名古屋　名取照子

ほがら〳〵大やしま國としたちて新天地はよろづよのこゑ

▲評　ほがら〳〵さしいづる初日の光は、都にひなに、海に山に滿ちわたりて、物みな萬代をうたひかはすべし。

人　岡山　森島古野

新らしき年の朝は天地のさらにひらけし心地こそすれ

▲評　着想耳なれたる心地はするものからやすらかなるをもて採りつ。

秀逸

都より歸りて母の膝のへに嬉しき年を迎へける哉　岡山　谷とめ子
君か代の光そみゆるあらたまの年の初日のうらゝかにして　東京　渡邊仙子
とりかはす年のほき文去年よりもましろふ友のますかうれしさ　群馬　伏島たき子
新玉の年を迎ふる嬉しさはをさな心にかはらさりけり　京都　池田美登子

甲

新玉の年を迎へてをさな子の遊ふ姿ものどけかりけり　福井　渡邊貞子
新玉の年の光ともろともに己が心も洗ひきめん　秋田　西村千賀子
胸のわたりかゝやきわたる武士が笑かはすなる門松のもと　埼玉　調宮君子
新玉の年のはしめの都には松の林に日の丸のはた　東京　三宅ひさ子
松かさり立てて門邊に乙女子が羽子追ふ袖の美しき哉　岩手　山崎よね子
むすほれし心もいつかあらたまの年の初日にとけてうれしき　愛知　木俣六女子
新玉の年ほく今朝はますらをの鬼ひしく手も醜の上かな　秋田　細矢はる子
軒毎にかゝけし御旗きらめきていとのどかにも初日さすなり　岡山　横川朋子
姉か織りて我裁縫ひし晴衣初やから揃ひて宮詣てけり　青森　茂呂その子
荒磯の大王崎は名のみして磯馴の松に初日影浮く　三重　長井民子
新らしき年をことほくまろうどの顔にあふるゝ喜のいろ　新潟　阿部秀子
山家には斧にもしめをかさりつゝ心しつかうれしかりけり　青森　田島正子
新たなるかきりもしらす天地は望みにみてる年のひかりに　北海道　西久子
おのか身も若かへりたる心地してにひこよみ見る今日そうれしき　京都　渡邊豐子
老の身も若かへるへき心地して年の初はうれしかりけり　愛知　石川頴子
新玉の年のはしめは何となく心もきよくすみ渡りつゝ　京都　山本收子
ゆたかなる年のしるしと祝ふらん戸毎〳〵にしめかさりして　靜岡　青木絹子
大君に松の齡を千代こめてことほき祝ふ年のはしめに　千葉　清宮くら子
里の子も年の初衣をきよそひて羽子に手鞠に遊ふけふ哉　東京　中段富士子
わかしより月日に老はなかりけりくるれはやかてあらたまりつゝ　山口　末田竹子
初日そふわか門松の小ゆるきやかへり來ぬらし去年の春風　京都　寺松政子
ほきかはす年の始は昔の蹤もけに新たなる心地こそすれ　長崎　葛原梅香
大空の靄になひける民くさのけむり長閑に年立ちにけり　山口　荒瀨千勢子
あたらしき年の始めともろ人の千とせをかてけ祝ふけふ哉　東京　戸塚鐡子
あらたなる年たつことに我か孫の智惠の進むを見るそたのしき　東京　田村きよ子
君か代の榮の音すみて學ひ舍の庭に初日の影のとかなり　岡山　武田須磨子
豐かなるまとゐ賑ふ福引の聲ものとかに年立にけり　茨城　鶴田喜代子
新たまる御世をいはひて民くさのときめきわたる今日そたのしき　大分　山下武貫子
遣羽子の音もいつしか靜まりて手まりの唄ののとけかりける　福島　伊藤靜子
かきならす箏の音いろも新らしき年をことほく調なりけり　東京　中山きわ子
あらたまの年の始ののとけさは人の心の常としもかな　埼玉　森田竹子
まつし身も年の始めの今日とてや心のとかに祝ひける哉　岡山　貝原保子
新玉の年の始めの今日なれは賤か心も樂しかりける　岡山　藤波音子
明の鐘聞きふるしても若水の流れぬ年の汲み心かな　東京　山口理勢子
大八洲さかまく御代のかきりなき年の始を祝ふ今日かな　岡山　貝原瞭子
新玉の年を祝へる門松にさすや初日の影のとかなり　三重　南部操子
立かへる年ほきたつる國の旗なへてきらめく高きひくきも　岡山　貝原藤惠子
初日影朝日の御旗てりそひて鍵の里も年明けにけり　青森　留目うた子
新玉の年の始のめてたさに松竹たてて祝ふけふかな　青森　留目文子
新玉の年をことほく門松にさやにかゝりし初日の出かな　京都　香山すわ子
道もせに金鵄の旗の軍人靈井に登る君か春かな　三重　西山ひさゑ

理事　侯爵夫人　鍋島榮子

うらゝかにとしのはつ日のさすかたは
まつのくらゐも高くみえけり

評議員　子爵夫人　本多延枝子

かとことにときはかさなる松をたてゝ
御代をことほくけふのうれしさ

としたちぬのへのあそひのあらましを
けふ來る友にちきりおかはや

評議員　鴻池路子

家ことに祝ふこゝろの門松の
みとり榮ゆる御代そめてたき

新玉の年の始めのほきの酒永久に變らぬ御代を祝ひて　東京　藤田繁子
うからみなつゝかもなくて諸共にゆたかなる世の初日をかみぬ　鳥取　近藤靜子
見るものはみなあたらしき心地して年のはしめそうれしかりける　兵庫　中村益子
うら〳〵と初日のひかりにほひてゝおさまる御代の春は來にけり　廣島　宮崎つる子
新年や若水くみてはらからと賀そめするそいと〳〵樂しき　京都　今井紀子
人ともにあらたまりぬる心地して年のはしめそのとけかりける　京都　磯谷譯子
子らかつく羽根は蝶とも見ゆるかな年立つけふは春心地して　長野　高橋きよ子
何となくうれしきものは初日影のとかに仰く新年の朝　京都　雛波眞久子
新らしき年立かへるみやこ路はしめのかさりのうちなひきつゝ　京都　渡邊時子
むつひ合ひて新年迎ふ嬉しさや賤か家なから和氣のみちつゝ　長崎　林田鹿子
君か代を千代に八千代と祝ひつゝ遊ふもうれし年のはしめに　靜岡　彦坂清子
新玉の年を迎ふる門毎に赤き心の旗そかゝやく　東京　井谷田次子
弟のおほつかなけにみつくきのあともいとしや謹賀新年　函館　安藤喜美子

俳句　初日の出

天　東京　中山正子

いたゝいて松の影ふむ初日哉

地　東京　赤澤英子

松影を持たぬ門なき初日哉

人　京都　乾つるゑ

廣まりし皇國の野邊や初日出

十客

若水をくみつゝあほく初日哉　十合喜美子
くみ上し水の上にも初日哉　阿部さゐ子
初日出我れも神代の人こゝろ　茂呂その子
初日出神代に似たる小村哉　木幕千代子
こよもなく長閑き者や初日影　渡邊米子
御手植の小松の上や初日の出　市橋幾子
改ることろに見るや初日の出　森田竹子
人の世の罪さらに無き初日哉　末田竹子
起き揃ふ内に白むや初日の出　彥坂たき子
うふすなの森を放れて初日の出　磯谷譯子

○

改まる言つかひや初日の出　南部操子
明て見る松の戸山や初日の出　花輪余志野
伊勢參り一番汽車や初日の出　莊司種子
羽子の影障子にうつる初日哉　山崎露子
若松の影美しき初日哉　波島時子
老夫婦揃ふて拜む初日哉　山崎米子
祖母君の伴して拜む初日哉　阿部秀子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

影

支

出づ、わが思想は今あらゆる舊を捨てゝ、たゞ新の一字あるのみ、舊き苦悶は今新らしき歡樂に代りぬ。凝視すればしめヶ岳の紅は更に紫煙の氣を吐くよと見る間に、俄然威如たり盛如たる初日影は雲を破りぬ、刹那萬象は讚仰の色に輝きぬ。

○羽子と毬とに美しきを競ふ京乙女、奉書羽織に泥の紋付けし紳士、軒毎の幔幕に、國旗に、提灯に、門松に、新らしき年の幸は、屠蘇の香に亂れて、長閑けさは實に京の春景色哉、われは先づ打上げ太鼓の音懷かしさに、注連に搖めく幣白き祇園へ初詣しぬ、身の榮を心に祈りつゝ、ふと廻廊のほとりに立てば、まだ蕾かたき梅ヶ枝に、玉を轉ばす聲音や何、あら美しの新春の壽哉。

○獅子太鼓の疎らに聞ゆ遠響や、凧の響弓や、春のどよめきは嬉びに滿ちぬ。眼醒し窓に一面の初日影、何とはなく微笑まれて枕を上ぐれば、遠き友が賀狀に驚かされぬ。美しきカードの幾枚、徐ろにわれの送りし端書の見すぼらしきを想いて悔ひぬ。更に諸雜誌の新裝に眼眩れし時、早くも下女の雜煮進むるに愕かされて、あたふたと床を出づ。かくて旅に年を迎へし今年の屠蘇も甘かりき。

に年迎ふらん　北海道　河内りつ子
新らしき年はむかへとふかす夜は昔ゆかしきかるたすごろく　群馬　井田しま子
新玉の年のはつ日の出るころはや年ほきの人は來にけり　京都　渡邊米子
うなゐ子も老もかはらで嬉しさは年立つけふの心なりけり　三重　大藏よし子
初日影匂ふ都の賑ひは子等の追羽子かるたとる聲　東京　瓜生保子
天津風天城の山の霽はれて出し初日は八千代照らさむ　鹿兒島　藤野錠子

乙

新玉の年のはしめの嬉しさはなつかしむ袂に春風ぞ吹く　京都　清水今子
いとし子の羽根つき遊ふ新玉の年のはしめのにぎはしきかな　神戸　山本榮子
たひらけくやすらけき御代の年立ちてのその光みちわたる哉　東京　小島幹子
新らしき年を迎へてうなゐらの喜ひいさむさまそめでたき　埼玉　加藤美代子
新らしき年をむかへて門毎に君か代祝ふ今日そたのしき　仙臺　渡邊道子
千代こめし松を便りに新玉の年の初日や今朝たち歸る　青森　吉田安子
新らしき年をむかへて君か代を千代と歌はぬ人なかるらむ　京都　山本靜江
あら玉の年たつ今朝は咲きそめし梅のかをりもめつらしき哉　仙臺　渡邊作子
新玉の年を迎へてもの〻ふの心もいさむこまのあしなみ　靜岡　井上りう子
武士の胸に朝日の照りそひて年立つ今日そ雄々しかりける　愛知　山田靜子
新玉の年の初めを壽きてとそくみかはすまとゐうれしき　岡山　山崎露子
何事も昨日にかはる心地して年のはしめは

このふみの千代萬代もかなれとそ先祈るなり年のはしめに　弘前　笹田正野
治まれる御代のためしと年明てつゝみの上にかけうたふなり　三重　中島千萬子
なみならぬ年をむかへてもろともに祝ふ今日こそ目出度かりけれ　長崎　本田彌須子
やとことに御旗か〻けて大君の盛なる代の年を迎ふる　仙臺　阿部すゞ子
幾そたひくりかへしてもたのしきは年立かへる始なりけり　兵庫　下岡松枝
越えかたき浮世の波やなきにけんひとしく祝ふ新玉の年　甲府　林友愿子
御旗ふく風もしつかに年立ちて羽根つく音そのとけかりける　山口　末田貞節子
幼子のかるたきそひてとる聲にうさも忘る〻年のはしめや　東京　伊矢野幸子
あら玉の年をむかへてうなゐ子か君か代うたふ聲ものとけし　大阪　十合貴美子
新らしき年の始は何事もあらたまりぬる心地こそすれ　青森　田島愛子

評議員　中山幸子

年毎にみとりさしそふ高砂の尾上の松は幾世へぬらん
あら玉のとしやほくらむ庭つとり人よりさきにうたひそめたり
はつ日かけ千代田の松に千代かけて君か代うたふ田鶴のこゑ〴〵

評議員　有島幸子

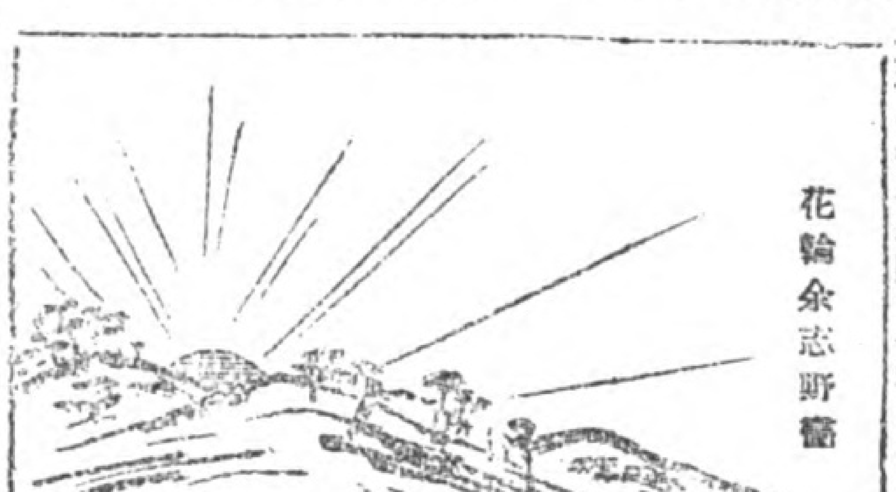
日のみはた高くかゝけて家ことにたてぬかとなき松かさりかな

あとけなきふしのなり〴〵聞えけり年立つ今日の學び舍の窓　三重　四山數子
たらちねの賜ひし手本いたゝきて今朝試る筆のけはひや　三重　長井きみ子
うとかりし人もとはれて賑はしき年の始そたのしかりける　福島　櫻川榮子
打たえし友なつかしも新玉の年のことほき書きて送らん　三重　小島駒子
仰き見る年の始のあけほののとけき御代の光なるらん　三重　荘司種子
新玉の年を迎へてをさな子か君か代うたふ顏ののとけき　東京　麻生敏子
若かりし昔も今とかはらぬは年の始の心なりけり　愛知　木原貞子
一ツ家の賤か軒にも門松の年新らしき色は見えけり　長野　金野やほゑ
九重の雲井に田鶴の聲き〻てのとかに年を迎ふうれしさ　岡山　西村てふ子
初日さす我大君の宮居をは千代萬代とまつあふくかな　愛知　山内綏子
歌かるたたのしふ今日の人心わか身もともにあらたまりつゝ　靜岡　大高ふみ子
す〻みゆく世にはけまされ老の身に重ぬる年もたのしかりける　靜岡　萩原さた子
山里の賤か伏屋も松立て〻屠蘇くみかはす今日そたのしき　福岡　松村喜賀子
天の戸をあけし神代の嬉しさに拍手高き年の初窓　三重　南部種子
よき夢を見せとうるや賤か子のあそひ樂しき年にしあるな　東京　秋元小菊
何となく心うれしく思ふかな己かよはひの老ゆるを忘れて　三重　小島數子
いくかへり年の初日は仰けとも今年はことにのとけかりけり　北海道　足利つゆ子
千鳥にもぬひてこそ行け里人は年のほきこといひかはしつゝ　山形　阿部さゐ子
あたらしき年の初めにさえかへり君か代祝ふ今日そ嬉しき　函館　内山郁子
大君のみいつと共に初日影年たつ四方に光か〻やく　京都　岩室駒子
人毎の心にも新玉の年立つけふは同しかりけり　東京　中山正子

佳調

むろ咲きの梅か香そへて汲みかはす年ほき酒のゑひ心地よき　東京　長鹽錠子
○さしのほる初日のひかり背にうけて今年のつとめおもひ見るかな　埼玉　小宮とめ子
○あたらしき年を迎へて君か代もわかよも共に祝ふ今日かな　青森　鈴木安子
○門松にさはらぬほとの風吹きて年立つ今朝ののとけくもあるかな　京都　古川よね子
○さやかにも年の初日にうつろひて賤か伏屋もはえそありける　橫濱　鈴木まつ子
○たらちねのみ病いえて新年をともにむかふる今日の嬉しさ　京都　花輪余志野
○工場の汽笛もけさは音たてすしつかに年の明けわたる空　愛知　市橋幾子

神原や晴れはと昇り初日の出　津田眛子
初日の出沖つかゝやく富士の峯　下岡松枝
初日の出人々の希望かな　吉田安子
新玉のとしの戸明けや初日の出　中隈富士子
明け渡るみどりの空や初日の出　田島正子
老松もわかゝへりけり初日の出　玉井光燊
治まれる御代の光や初日の出　山口理勢子
鶴は舞ふ千年の松や初日の出　清水以和子
磯山や初日を拜む人の影　阿部喜勢子
初日の出古城の松にほの〴〵と　山本久子
初日出宇治の橋から拜みけり　山内せい子
ためしなき御代の光や初日の出　萩原さた子
かゝやくや大内山の初日の出　足利つゆ子
御手植の松に初日や神の庭　西山ひさゑ
富士薩摩絹緞飾や初日の出　井上りう子
天の戸は押し開かれて初日の出　近藤靜子
訪ふ人も無き山里の初日哉　西村智賀子
庶人も日の本あほく初日哉　三宅久子
くもりなき御代の榮や初日の出　長井うた子
閃きて鶴も舞ひ出よ初日の出　伊矢野幸子
尊しや門松にさす初日影　西川縫子
大平の御代を照すや初日の出　小野きよ子



花輪余志野畫

二月五日分募集和歌俳句短文新體詩課題は四ページに揭げ置き候故て御覽あれ

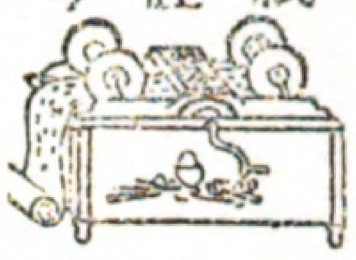
常よりもけ高く見へて初日の出　藤田榮子
晴れ渡る二見の浦や初日の出　庄司みや子
山の端に覗き初めたり初日の出　植原千代子
寺々の鐘靜まりて初日の出　香山すわ子
治まれる御代の鏡や初日の出　佐藤とく子
ほきとを先かきそめの初日哉　伏島たき子
松枝に呰千代く初日かな　長井いれ子
蓬の下に初日出にけり二見潟　池田奥登子
初日の出雀放して詠めけり　齋藤さき子
鶯も羽つくろへけり初日の出　河内りつ子
草の戸や初日ゆれ込む窓の竹　秋元小菊
帆積舟今や入江の初日の出　笹田正野
我も又瑟瑟にあり初日の出　櫻井かれ子
富士の山添く霞めり初日の出　大高ふみ子
初日出千代田たから田松宵し　楢津きん子
天の戸を明し紫や初日の出　南部種子
門松に黃金の玉や初日の出　大川梅子
松の香や小路に滿ちて初日の出　藤咲芳子
初日の出細つけたれば鏡餠　長井民子
伏し拜む心新らし初日の出　田島愛子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恭賀新年　東京有樂町　有樂社

◎舶來バイオリン新着◎西川製風琴

無師獨奏 紙腔琴　舶來 手風琴



◎配用曲目二百五十餘種出來●定價大形上製金十五圓●同中製金九圓七十五錢●小形金五圓定價三圓卅錢三圓五十錢四圓五圓六圓七圓平錢八圓十圓

西洋（ハーモニカ）横笛

●定價金卅五錢四十錢五十五六七十錢一圓一圓廿錢一圓五十錢以上

◎大聲蓄音器定價卅三圓五十五圓六十五圓◎平圓盤發音器定價金廿五圓卅七圓金五十三圓金八十圓

教育的　高等玩具　新荷着

東京銀座三丁目二番地
十字屋樂器店

男女 ちゞれくせ毛
東京
本郷區丸山福山町

は何程の難毛にても直に根本的全治するの奇術を郵券封入申込の同患者に無料教示し誓て美髪にして差上げます

岩阪澄子

剛健質朴なる
世界的青年
三巻第壹號　本日發刊　定價十錢　郵稅一錢　十二部一圓十二錢稅共

眞の相談相手を求めよ　佐藤少將
トルストイの實驗せる 情慾征服法
何故に痛快なる人物は出ざる乎　木村鷹太郎
破格論、心の晴天　戸水博士
高峯博士の學生時代
富豪の一大自白　栢陽
製鐵王横山久太郎氏　掬泉
大新聞の一晝夜　文學士 西軒道人
午前一時の喜劇　本多博士
世界的大附錄 奇絶快絶 空中通信　約十二百

月刊
食道樂
三巻第壹號　本日發行　價十二錢　六部七十錢

福笑判じ繪　本誌四倍大懸賞考物彩色石版
口繪お屠蘇　柏谷洗鱗
正月のお膳立●西洋料理一月のテーブル●洋酒調合法●一月中茶懷石獻立●食事作法●低廉なる滋養物●鰯鮭を旨く食する法
家庭料理いろは歌

至珍至妙なる
東京パック
三巻第壹號　本日發刊　定價十三錢第十二部壹圓四十五錢郵稅共

◉大附錄バックの神
新車曳リップバン浦島　新年松、萬歲の保護、名士七福神
酒呑の新年旅行、痴騷動　南清の炬燵、丁未の水雷艇
カルタ會の傳心機　五万圓の惣菜
横筋違に春は來に鳥、不思議なる
お正月稅、歐洲の二大問題
懸賞當撰ぶせう道具
讀物　備はれ羊俳優ポンチ、門松の物語　見たる藝者艶子の述懷、荒馬　杢兵衛失敗凸坊の議論
臨時增刊十日發行　ハイカラパック
本號は體裁內容共奇拔嶄新を極む

面白く有益なる
英學界
五巻第壹號　本日發刊　定價十錢　六部五十五錢　十二部一圓

坪內文學博士肖像（寫眞版）
英語使用地圖及國語統計表
鬼瓦（狂言英譯）　野口米次郎
妻の迷信（英文和譯）　熊本謙次郎
作文構成法　佐々木文美
英語實用活例　佐々木文美
學生會話●英文法雜話●商業會話●英語熟語講義●太郎の日記●手紙の書き方●和文英譯●英文和譯●西洋お伽噺●懸賞考物
大附錄 對照カルタ　英語、日本語、エスペラント語、
◉稚松集　英學界定期增刊（五日發刊）

手紙雜誌
四巻第壹號　十日發刊　定價十八錢六部壹圓

新年號大發展!!!
卷頭大寫眞版 今上陛下御降誕　御悦び狀
獨帝ウヰルヘルム御宸翰　本居宣長
ローズベルト卿書翰
手紙小說 風葉、幽芳、霜川 其他
古今人書翰寫眞木版約百通
本號に限り三十錢

美しく面白き
世界之少年
二巻第壹號　本月發刊　定價十二錢郵稅一錢六部七十五錢郵稅共

新年大附錄新案暗算競爭遊戲　樂天氏の考案にて面白き事無限
漫畫世界　面白き戯畫數多を載せ其他挿畫は澤山
綿羊と山羊の別　須藤獸醫博士
甲板洗ひ　郡司大尉
世界一の大運動會　藤井法學士
世界一の尾長鶏　田子理學士
蒙古探檢實記　某陸軍大尉
手紙の月日　重野博士
氷河　田丸理學博士
船中の蝮蛇　江見水蔭
面白い畫の書き方　北澤樂天
考物繪探大懸賞文募集
魚類海を塡めん　石井研堂

恭賀新年

京都市白川筋三條
堀川商會

捺染　友禪

大阪本町三丁目
堀川分店

白ゆり白粉は東京市内に賣捌つゝある白粉舶來品共四十四種に付き內務省衞生試驗所の試驗に於て無鉛白粉として第一に表明せらる
白ゆり白粉は梨園の花たる芝翫、梅幸、高麗藏、羽左衞門等の常に愛用せらるゝ最優等無毒の逸品なり

東京本所　井手製

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

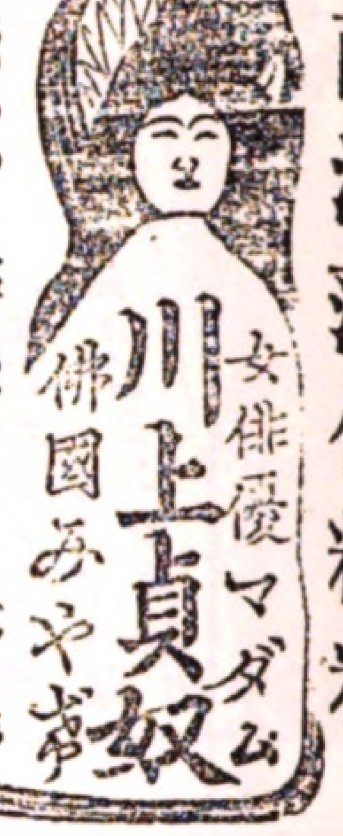
恭賀新年

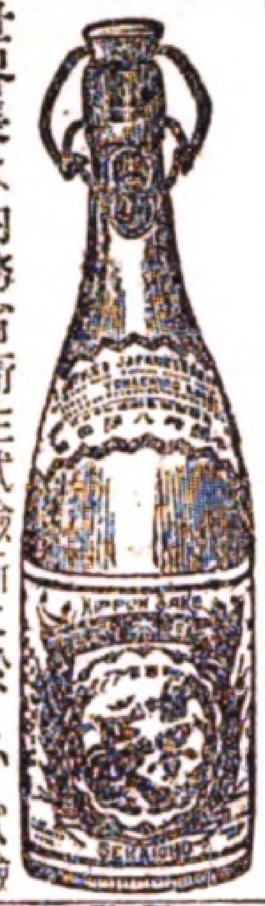
東京市日本橋區通二丁目
第一生命保險相互會社
電話 本局一三七三 本局一七三七

謹賀新年
於五二共進會 有功金牌受領
高等箪笥長持
御婚禮道具各種
東京市京橋區水谷町
武藏屋箪笥店
電話新橋二七六三番

第五回博覽會褒賞

▲正定價引なし
營業品目 特許竈各種●特許据風呂
特許テンピ●特許水焜呂
實用煖爐●鍋釜品々
日本橋區蠣殼町二丁目十五番地
名和本支店
神田泉町通松永町十八（電浪一一七七番）

西洋薄化粧料

女俳優マダム川上貞奴 御國みやげ
ヤッコ
此ヤッコで顔を洗ひますと色を白く艶を出し顔の小皺をのばす西洋薄化粧料ゆへ日本流の薄化粧や白粉下などを用ひるに及びません
●●定價一箱廿錢全國送貨四錢三箱美麗函入五十五錢同送貨十錢（此箱入には西洋男女化粧法の秘傳をくわしく書たる美本を添ゆ）
東京神田區御成道田代町九番地 ヤッコ日本一手發賣元 原品直輸入元 地球堂 田中丹治

壜詰 最上清酒
大日本優等清酒
世界長
御年玉用は美麗箱入

世界長は內務省衞生試驗所に於て、試驗を經たる最良清酒なり
世界長は器械口瓶詰なれば體裁最も美麗にして用量を定めて飲用するの便宜あり
壜詰 一升入 四合入 貳合入 一合入の四種
東京日本橋區堀江町四丁目（通稱てりふり町通り）
發賣元 高橋商店
電話浪花一五六一番

謹賀新年
御勅題模樣新年の松 發賣
ゆかりが神田赤のれん帳
本店 神田小川町通り（電話本局二八五三）
出店 新橋博品館階上 橫濱出張店橫濱館 赤坂田町五丁目支店

帝都唯一受賞袴
小町印學生袴
日本橋區彌生町 卸部 永井本店（電話浪花一八四一番）
神田區南神保町 小賣部 永井支店

從四位淺田宗伯先生直傳
淺田飴
だんせきに 淺田飴
すきはらに めし

長藥にて口甘し
定價 金五拾錢 金參拾錢 金貳拾錢 金拾錢
本品全國到る處の藥店に販賣す
本家 東京神田鍛冶町 大阪北久寶寺町 堀內伊太郎

消化新藥
醫學博士井上善次郎氏の實驗報告に曰く 胃腸障害は往々疾病誘發の根元となり、又疾病治癒の轉居を遲鈍ならしむ、而して胃腸障害の內、澱粉を不消化に因するもの甚だ多し。殊に米飯を常食とする本邦人に於て然りとす。之を救濟する一に完全なる澱粉消化藥あるのみ、此目的に向て、余は高峯博士の發見に係るタカヂアスターゼを使用し、好果を收め、此種の製劑中最優等のものたることを確信す。

醫學博士栗本東明氏の實驗報告抄錄 高峯博士發見のタカヂアスターゼが唯一の澱粉消化藥として著大の效力を有するとは業に既に世の定評あり今や予は其實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著效を確認すると共に此種の患者に每に之れが服用を勸告する者なり
錠劑粉末各大小容器入各地藥舖にて販賣す模造品あり必ず高峯氏タカヂアスターゼと乞御指定。 實驗報告集は無代進呈

家庭文藝 第一卷第一號 明治四十一年一月一日發行
每月一回一日發行
編輯主任 佐々醒雪
定價一冊 金貳拾錢
意匠監督 和田英作
清淨なる娛樂!!! 純潔なる讀物!!!
良家庭にのるべき唯一の文藝雜誌!!!
名流訪問記 學士院長加藤博士（文藝の惡感化） 林外務大臣（家庭の讀物と文藝） 澤柳文部次官（少年と娛樂） ラッド博士（家庭雜話） 三宅雪嶺博士（家庭對文藝） 浮田和民先生（良家庭と娛樂信仰及文藝）
意中の妻（小說） 小問題（小說） 羹（小說） ダンテ詩選 露西亞浦島 宮島詣 廣津柳浪 なにがし 小山內薰 上田敏 馬場孤蝶 新保一村
家庭と藝人 上田博士
双六に就て 芳賀博士
祝日私議 藤岡博士
忙中閑話 佐々醒雪
家庭漫言 大町桂月
文士とは何ぞや 沼波瓊音
家庭と文學趣味 生田長江
野趣と自然 稻田澆光
現今に於ける繪畫界の思潮 鷹田其石
新藝術と素人 伊原青々園
昨今の劇界 岡鬼太郎
懸賞和歌俳句狂句●新刊批評●時報 山內文學士 佐々醒雪
百人一首遠鏡（俗語譯）
表紙（天平時代模樣） 長原止水
口繪 牧羊の曲 中澤弘光
繪葉書（かるた） 和田英作
繪葉書（新年の松） 結城素明
砂目寫眞版（母の愛） 森西名備
カット 杉浦朝武
東京日本橋區本町二丁目 金港堂書籍株式會社

大懸賞の本誌を求めよ 一年の悔
婦人世界
正月元旦發行 每月一回 二卷 第壹號 一冊拾五錢 郵稅一錢 半年八十錢 郵稅共九十錢 一ヶ年一圓七十五錢
口繪 新年の松（彩色畫）村田丹陵 ◎新年の松（和歌）三輪田眞佐子 ◎彩色畫（踊見花）
娘時代の生活法 村井弦齋
△顔は如何に美しくすべきか △眼は如何に美しくすべきか △鼻は如何に美しくすべきか △音聲は如何に美しくすべきか
◎九十歲の長壽を保てる祖母の健康法（藤田清子）
◎新年大懸賞珍附錄（本號にあり）
△賞品（婦人持十八金側懷中時計△十八金寶石入金指輪△縮珍帯側△白縮緬△銀側懷中時計△絹張洋傘△總て千餘點）
◎かるた取の名人實驗談
◎顔の形ちと髮の結び方 △丸顔と長い顔に似合ふ髮 婦人博士
◎西洋の婦人出產 三輪田
◎結婚前の注意
◎感心な女學生
◎小說 見合ひ 村井弦齋
◎肥滿治療奇法 醫學博士 木村德衞
◎婦人に似合ふ晴れ着
◎弦齋夫人料理談・△汁粉と雜煮△鹽鮭の料理 加藤博士
◎玩具の選び方
◎名家結婚年齡調べ
◎少女欄の少女諸君お相手
東京京橋南紺屋町 實業之日本社 郵便振替貯金口座六番 全國書肆

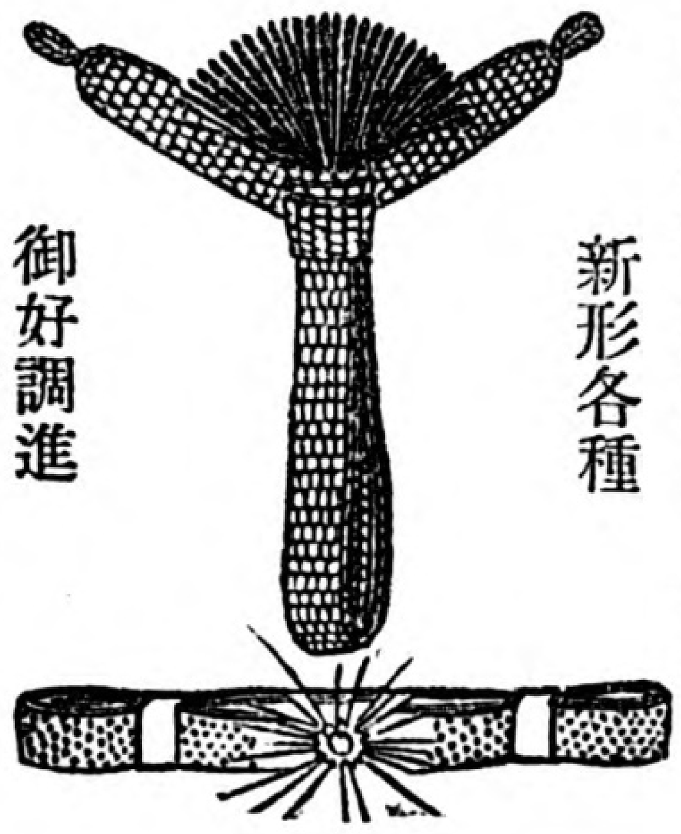
恭賀新年
寶丹本舗 東都池之端 守田治兵衛
全國売捌所 守田寶丹
本年も倍舊の御愛顧を希望

伊勢伊時計店
商品案内 無代進呈
東京市京橋區銀座一丁目 電話新橋（二三三一）

○銀側兩蓋之部 流行婦手形
價八圓半 瑞西石入向爪アンクル
價十圓半 同惣石卷上向アンクル
價十三圓半 同甚三枚惣石卷上向爪
價十四圓 米國中蓋付切天武向爪
價十七圓半 米國中蓋付上等品

○金側兩蓋之部 流行婦手形、
價三十三圓 瑞西國十八金側御婦人持
價六十九圓 瑞西十八金側中形紳士持
價七十九圓 米國製十八金中形紳士持
價九十五圓 瑞西18金側形18紳士持
價百十五圓 米國製18金形18紳士持

新年御進物用
絹糸眞綿組糸一式
其他御編物用鶴印レース糸
新形各種



御好調進
東京市京橋區南傳馬町京橋際
鶴岡助次郎支店
電話本局一七八二番

傳染病研究所長 醫學博士 北里柴三郎
傳染病研究所部長 醫學士 柴山五郎作著
最近之肺結核療法
第八版發行 正價金八十錢 郵税六錢
神田區鍛冶町 誠之堂書店 其他

恭賀新年
引續き舊五二會場内にて多數の新柄染織物種々取揃へ陳列販賣仕候間御立寄の節は是非共御一覽の上御用命の程奉希上候　敬白

本店 東京人形町通新乘物町
上總屋呉服店
電話浪花六百十番

第貳拾貳回年度報告
○貸對照表

借方　負債ニ屬スル分

一株金	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
一諸積立金	二三三、一八四・九〇〇
一預リ金及保信金	二八、八五九・七二六
一支拂手形及未拂金	七九三、五七五・二六〇
一非常特別税金	一一八、一一五・二〇〇
一前季繰越金	二一、八〇〇・八五〇
一當半季利益金	一八三、七一六・九三二
合計	二、三七九、二五二・八六八

貸方　資産ニ屬スル分

一不動産器械及什器	一、一七二、七一四・八七三
一需用品及備品在高	三八、〇八七・五六八
一原料、仕掛物及屑物在高	八〇四、五八七・七一二
一製品及製品送荷在高	七五、三三二・一六〇
一約定濟製品在高	七五、一九二・一六〇
一得意先、未收入金及假拂金	一八八、八七三・一一〇
一職工貸金	一二、五九九・二八〇
一銀行當座預金及現金	一一、八六六・〇〇五
合計	二、三七九、二五二・八六八

○利益金處分
一金拾八萬參千七百拾六圓九拾參錢貳厘　當半季利益金
一金貳萬壹千八百圓八拾五錢也　前季繰越利益金
計金貳拾萬五千五百拾七圓七拾八錢貳厘
内
金五萬圓也　器械及建物代消却
金壹萬圓也　法定準備金
金壹萬圓也　役員賞與金
金六萬圓也（一株に付金三圓即年一割二分）株主配當金
金五萬圓也（一株に付金二圓五十錢即年一割）株主特別配當金
金貳萬五千五百拾七圓七拾八錢貳厘　次季へ繰越金
右之通り候也
明治三十九年十二月
東京モスリン紡績株式會社
取締役會長 杉村甚兵衛
專務取締役 端善次郎
取締役 山崎作次郎
右檢査候處相違無之候也
監査役 坂本金之助
監査役 人見新助
監査役 金子良吉
監査役任期滿了ニ付改選ノ結果坂本金之助、人見新助、金子良吉ノ三氏再選重任ス

最上醤油元祖

○宮内省御用達也
○開業二百六十三年
○品質の吟味嚴重也
○風味他品に超絶す
○日本一の釀造高也

釀造元 下總銚子町 濱口合名會社
振替貯金口座五〇二一

謹賀新年
東髮用トシテハ無比良香油ナリ

東京本郷三丁目
かねやす
電話下谷一三三六番

第九年　日本婦人　第壹號

年を閲する玆に九、新装して出てたる本誌を見よ

旅順の追懷　櫻井中尉
日本の女性
羊の話
女子の道
玉藻集
近世の婦人優
待
ピアノの價値
塙保己一
人體の美
竹柏園歌話
羽衣物語
書道小言
英國の女子教育
下田歌子　安藤喜一郎　井上博士　高濱虚子　增田講師　東儀鐵笛　井上頼國　後藤ドクトル　佐々木信綱　關根正直　小野鷲堂　宮川すみ子

勅題料理　石井泰次郎
茶道　松平子爵
編物　田村糸子
圖案　小室信藏
口紅の中毒　菅軍醫
衛生顧問　三島博士
荷馬車　瀬沼葉子
ほとゝぎす　中島孤島
誕生日　岩佐白潮
繪
お稽古　黑田清輝
國府津海岸　中村不折
群羊（寫眞版）　シユリロ筆
大附錄繪畫　新春の風物（木版）　櫻井中尉左手筆

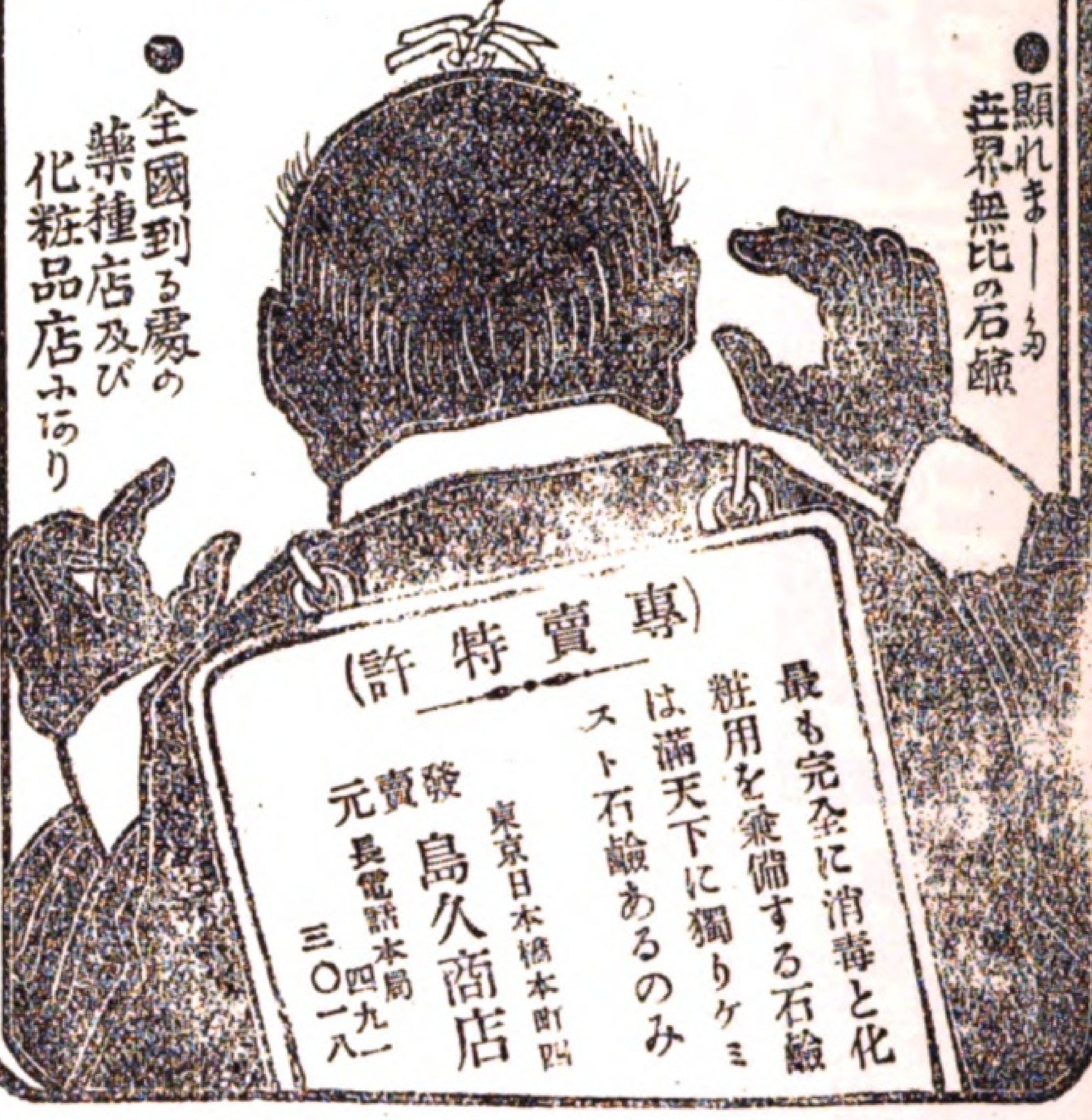
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

謹賀新年

CHEMISTSOAP
ケミストス石鹸

衛生家の一日も欠く可からざるもの
御試用の上該品の特長を知り給へ

●化粧料
●消毒用
●顯れましたる世界無比の石鹸
●全國到る處の藥種店及び化粧品店にあり



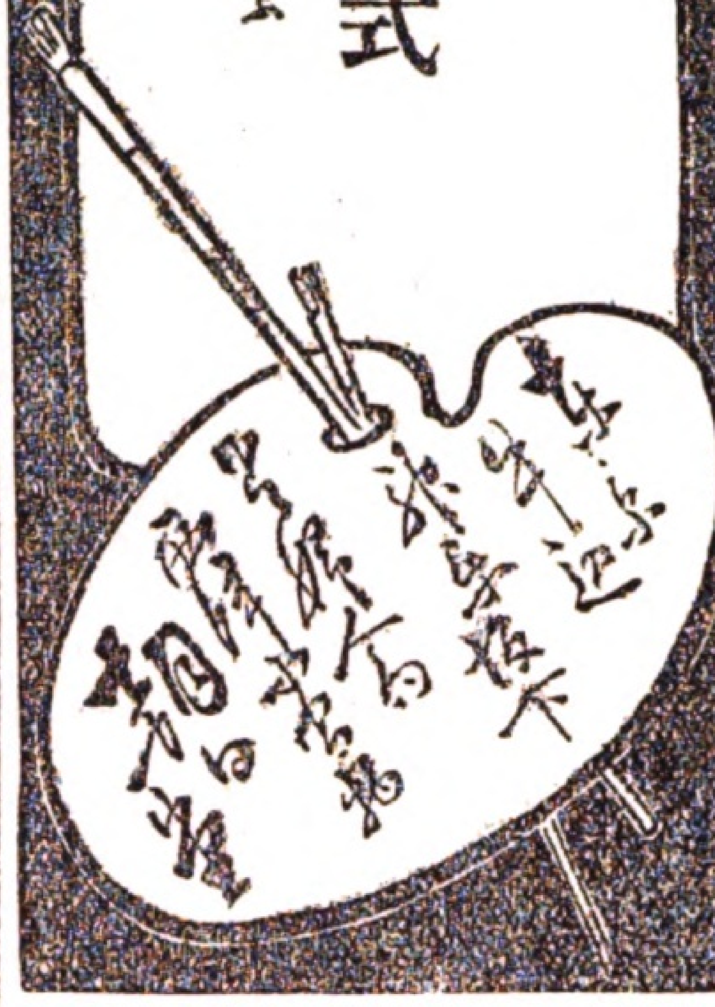
專賣特許
最も完全に消毒と化粧用を兼備する石鹸は滿天下に獨りケミスト石鹸あるのみ

發賣元　島久商店
東京日本橋本町四
長電話本局 四九一 三〇一八

恭賀新年

西洋小間物類一式

尚本年も不相變御愛顧を希ふ



補血良剤

ネーブル無臭肝油

補血剤として稀世の卓効を有する新藥にして僅かも惡臭を存せざるのみならず飲用に適する香氣を有するを以て婦女子も尚喜びて服する事を得べし

東京日本橋區本町四丁目
合名會社島久商店
電話本局特四九一
電話本局三〇一八

商標

羽おり紐
半しえ

市内は御用命次第早速一報直ちに御伺仕候

東京よし町
假好組糸舗
電話浪花一五六

定價表は御申越次第直ちに呈送仕候

御半ゑり新もよういろ〱

三善

日本橋堺町通角屋
電話浪花一二七〇番

御料 御園白粉(みそのおしろい)

畏(かしこ)き邊(あた)りの御料(ごりやう)に召(め)させ給(たま)ふ

高貴(かうき)御化粧料(おんけしやうれう)

完全(くわんぜん)無鉛(むえん)

ねり製　御園白粉
水製　御園白粉
こな製　御園白粉
高等化粧水　御園とき水(みづ)
洋式化粧　御園クリーム
濃厚化粧水　御園打白粉(うちおしろい)
　四季(しき)の花(はな)
に物(もの)あり御注意(ごちうい)

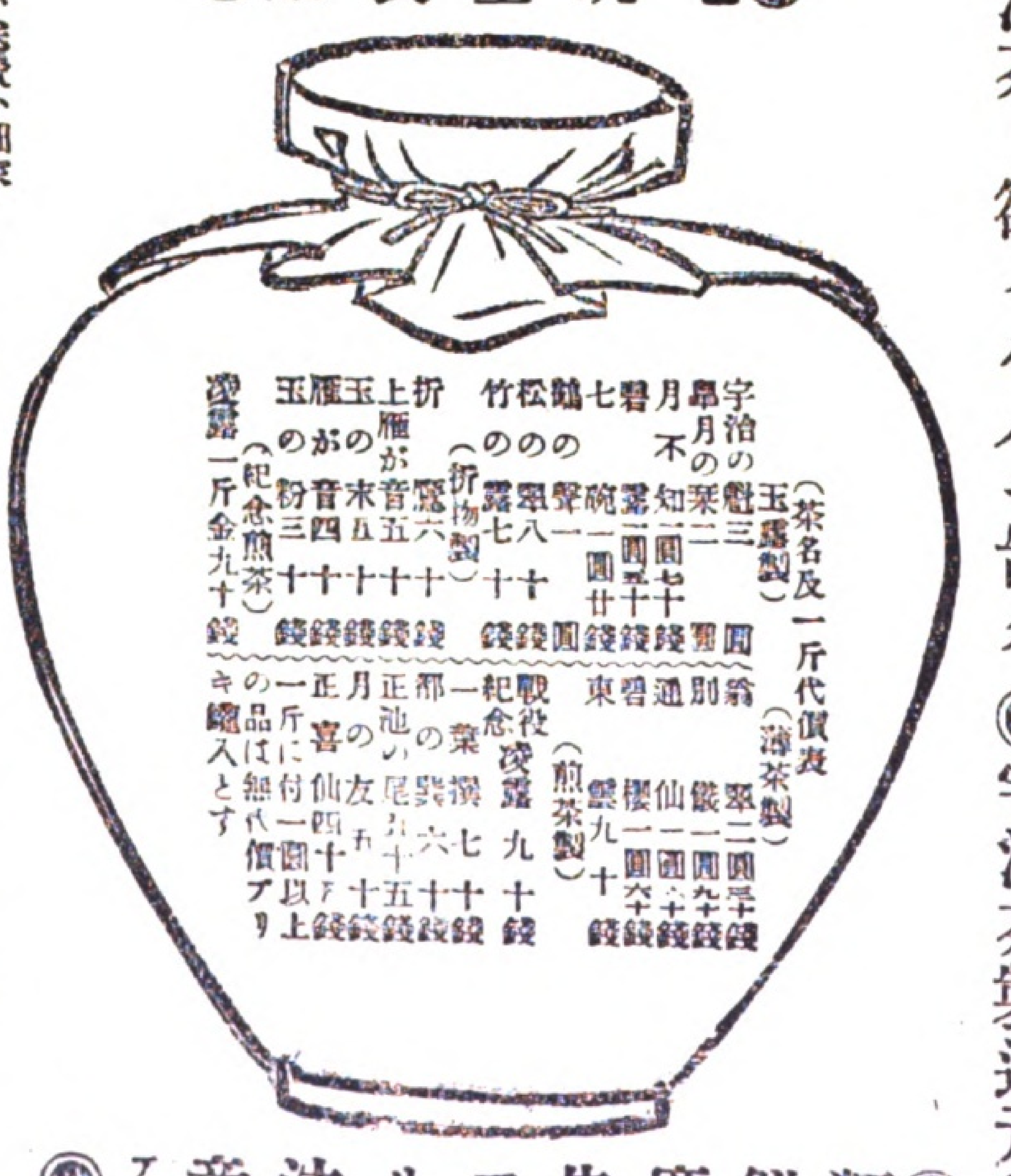
製造元　東京本所　胡蝶園
發賣元　東京小間物化粧品問屋　丸見屋商店
日本橋區橘町四丁目
長電話浪花四四六番

謹賀新年各位萬歳

弊堂ハ往古ヨリ御寶ノミナレ氏世運ノ進歩ニ伴ヒ家業ヲ開展シ小包郵便ヲ利用シ直接需用家ノ求メニ應セントシ小賣販賣ヲ開始セシヨリ茲ニ六年日尚ホ淺シト雖モ今ヤ全國ニ我製茶ヲ常用セラル、好茶家ハ殆ド二萬家ニ達セリ是實ニ弊堂ノ光榮ナリ此ノ急速力ニテ業務ノ發達セシハ素ヨリ各位ノ御愛顧ニ頼ルト雖モ抑亦小包郵便ガ文明的便利ニシテ各地方ニテ求メラル、ヨリ非常ニ安價ナルニ因レバナリ今ヤ年ノ改マルト共ニ益々精良品ヲ撰ミ貴需ニ應シ候間倍舊ノ御引立ヲ乞フ

販賣手續
一　表中ノ茶名ト斤數ヲはがきニテ御通知アレバ直ニ送品ス
二　代金ハ前金又ハ小包代金引替トス
三　郵便代金一圓以上御注文ノ節ハ送費ハ御家ニテ負擔ス但清、韓、臺灣ハ小包一個ニ付金二十錢ヅツノ増税丈御負擔ヲ乞フ
四　遠隔ノ地方ハ振替貯金ヘ加入(口座番號一〇〇四)仕リ候間此ノ方法ニヨリ御注文被下候ハヾ費用ヲ要セズ安全ニ候注文用紙ハ御一報ニヨリ次第何枚ニテモ送リ升

◉七碗堂製品◉



(茶名及一斤代價表)

(玉露製)
宇治の魁　三圓
朧月の栞　二圓
月不知　一圓七十錢
碧露　一圓五十錢
七碗　一圓廿錢
鶴の聲　一圓
松の翠　八十錢
竹の露　七十錢
(折物製)
折鷺　六十錢
上雁が音　五十錢
玉の末　五十錢
雁がね音　四十錢
玉の粉　三十錢
(紀念煎茶)
淺露　一斤金九十錢

(薄茶製)
翁翠　二圓五十錢
別儀　一圓九十錢
通仙　一圓六十錢
碧櫻　一圓六十錢
東雲　九十錢
(煎茶製)
觀役淺露　九十錢
紀念一葉撰　七十錢
一葉の露　六十錢
邢の尾　五十五錢
正池の友　五十錢
月の喜仙　四十錢
正一斤に付一圓以上
の品は無代價ブリキ罐入とす

◉實用ト經濟ヲ重ンセラル人ハ一讀アレ
◉乍座眞正ノ宇治茶ヲ欲スル人ニ告グ
◉宇治茶製造元◉

古川專太郎
振替貯金口座番號 第一〇〇四番

◉類似廣告アリ注意アレ◉

煉香油

パール

貴婦人用　紳士用

パールハ學術的最良ノ煉香油ニシテ四季ニ適シ毛髮ヒゲヲ保護養生シ丸テノ惡臭ヲ去リ愛スベキ香氣ヲ有スル世界有數ノ逸品ナリ

發賣元　東京ハマ町　平尾贊平商店

本品は宮内省御買上品たる光榮を辱ふせり

たかしまや
飯田呉服店
京都　大阪

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○都足袋ハ農商務省ニ出願シテ登録商標專用ヲ得タル物ナリ
○都足袋ハ外觀優雅ニシテ現ニ都人粋士ノ歡迎ヲ受ケツヽアリ
○都足袋ハ踵ニ縫目ナク衣服ノ裾ヲ傷フヿナシ

都足袋粋乃友

○都足袋ハ製作ニ至大ノ注意ヲ拂ヘリ故ニ具合適良ニシテ縫目ノ破綻スル虞ナシ
○都足袋ハ材料最モ優逸ニシテ經濟上尠ナカラザル効力ヲ有セリ

三重足袋君の益

○三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ優ニ群ヲ拔クノ耐久力ヲ有ス
○三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ冬季ハ寒ムサヲ防グ効力ヲ有ス
○三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ脂肪ノ滲出ヲ遮ギリ體温ヲ保ツノ効力アリ

龜屋

東京日本橋室町三丁目　龜屋足袋店
電話本局一七一二番　宮内清兵衛　(略電信カメヤ又カ)

めをはぐし　がミキ

◉村井弦齋著……

増補註釋 食道樂續篇

春夏の巻の巻　正價各八十錢　郵税内地拾錢　臺灣清韓卅錢

◉村井弦齋著◉四十四版

増補註釋 食道樂

春の巻　夏の巻　秋の巻　冬の巻　合本　正價一册金貳圓也　郵税十五錢　臺灣清韓卅五錢

◉村井弦齋著◉十六版

實地經驗 台所重寶記

正價金八拾錢　郵税内地拾錢　臺灣清韓參拾錢

發行●東京市麹町區有樂町報知社出版部●發賣所東京市銀座大通新橋際新橋堂書店

最上醤油　キハク印

放聖路易博覽會　名譽大賞牌受領

醸造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門　電信略號(キハク)又(ハク)

キハク印醤油の味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衛　電話浪花五七七番

御料 煉香油

貴顯紳士淑女毛髪用　カスガオイル

小間物店　化粧品店ニ販賣ス

松澤ホーサン石鹸

○色白く艶をだす最良之化粧石鹸(大形廿錢小形拾錢)
○到ル所に販賣す(こせ物)あり松澤ホーサン石鹸と御買求をこふ

東京本石町四丁目　芳香藥種問屋　ムスク香水本舖　松澤常吉　(振替貯金四四七番)

東京買物用達會社

東京市神田區千代田町　(電話本局八〇四)

東京に於て賣る物品は何品にても最も廉價に最も正確に最も迅速に最も親切に買入に盡力すべきに付き家庭に於ける必要品は何品にても購入方速に申込まれたし

(新刊)　女子高等師範學校教授 文學士 下田次郎先生新著

西洋教育事情

全一册　定價參圓　(郵税不要)

▼菊版羊裝▼本文八百三十二頁▼挿畫約三百個

本書は下田文學士が、前年間西洋留學の間、英、米、佛、獨、伊、露、白、瑞典、諾威、丁抹、瑞西の諸國を遊歴して、學校、實地の授業、教員、學生々活、運動遊戯、圖書館、博物館を始め、音樂、演劇、繪畫、彫刻、建築、娛樂、慈善事業、家庭、社會生活、山水、名所、舊蹟等、苟も學の直接間接教育に關するものは、氏が鋭敏なる觀察性と絶倫の精力とを以て、細大洩らすことなく見聞記述するに努め、其參考となるべき文書繪畫を蒐集し、又氏自ら寫眞機械を携へて、場合に應じて寫取せられた、豐富なる材料に依りて成れるものなり。從來教育に關する著書は汗牛充棟啻ならず。雖、西洋教育の實際を、此の如く精細に、此の如く多方面に渉りて記述せるものなく、且其挿入せる三百の繪畫は、獨り數に於ても、空前なるのみならず、また本文と相待て能く其實際を眼前に彷彿たらしむ。されば本書の閲讀は、教育家には實務上多大の收穫を與ふるに止らず、亦好個の指導者たり、學生には其眼界を廣闊にし、健全なる努力心を喚起する、無比の指導たるものなり、今や印刷半歲の功を竣へて、教育界に此書を供提するを得るは、本社の私に喜ぶ所なり、請ふ愛讀を賜はらんことを。

◎發兌元　東京市日本橋區本町三丁目一七　金港堂書籍株式會社　◎大阪市東區北久太郎町　同支店

女學通信教授

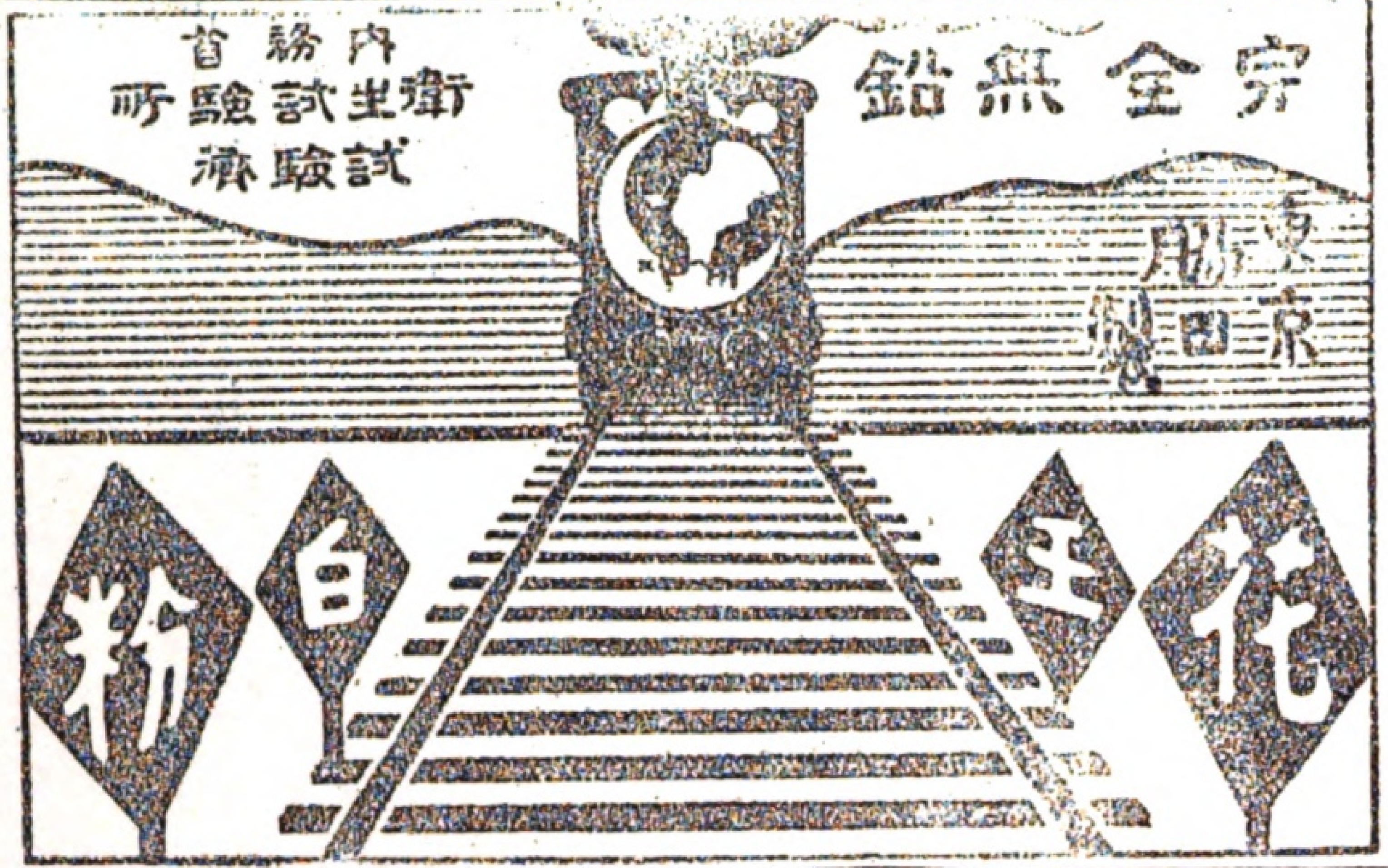
本會は女子教育の普及發達を圖らんが爲に諸名家の講義に係る女子必須の諸學科を網羅せる女學の講義録を發行して會員に配布す●小學より進みて高等女學校に入學し難き事情ある女子達は本會に入會して家庭に居ながら諸學科を講習し以て女の道を辨へ給へ●本會の基礎確實にして講義録の有益多趣なることは夙に世の定評あり昨年冬本會創立十週年に當り畏くも皇后宮より御歌特賜の恩命を蒙れり●先月より第七回目の前期講習會を開く此際とく入會申込あれ●詳細の會則希望者はハガキ又は電話にて請求あれ直に送呈すべし

十一月二十一日初卷發行

新學期を開き會員を募集す
○本會創立以來十二年會員四萬人に達す○月謝金廿五錢入會金不要

東京市麹町區下二番町卅七　大日本女學會　電話番町一三三〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



醫家

處方調劑

◎調劑之正確◎

一醫師ノ處方箋ニ係ル調劑ハ極メテ丁寧綿密ニ且ツ迅速ニ調劑ス

一當藥局ハ既ニ久シク醫家諸彦ノ御信認ヲ辱フシ尚東京郵便局ノ指定藥局タルノ光榮ヲ有ス

一藥局トシテノ設備又大ニ完全シ醫家ノ處方箋ニ依ル調劑ハ必ズ主任藥劑師之レヲ擔任ス

◎藥品之純良◎

東京神田今川小路(電車停留場前)

電話本局一五一八　尾澤純良堂

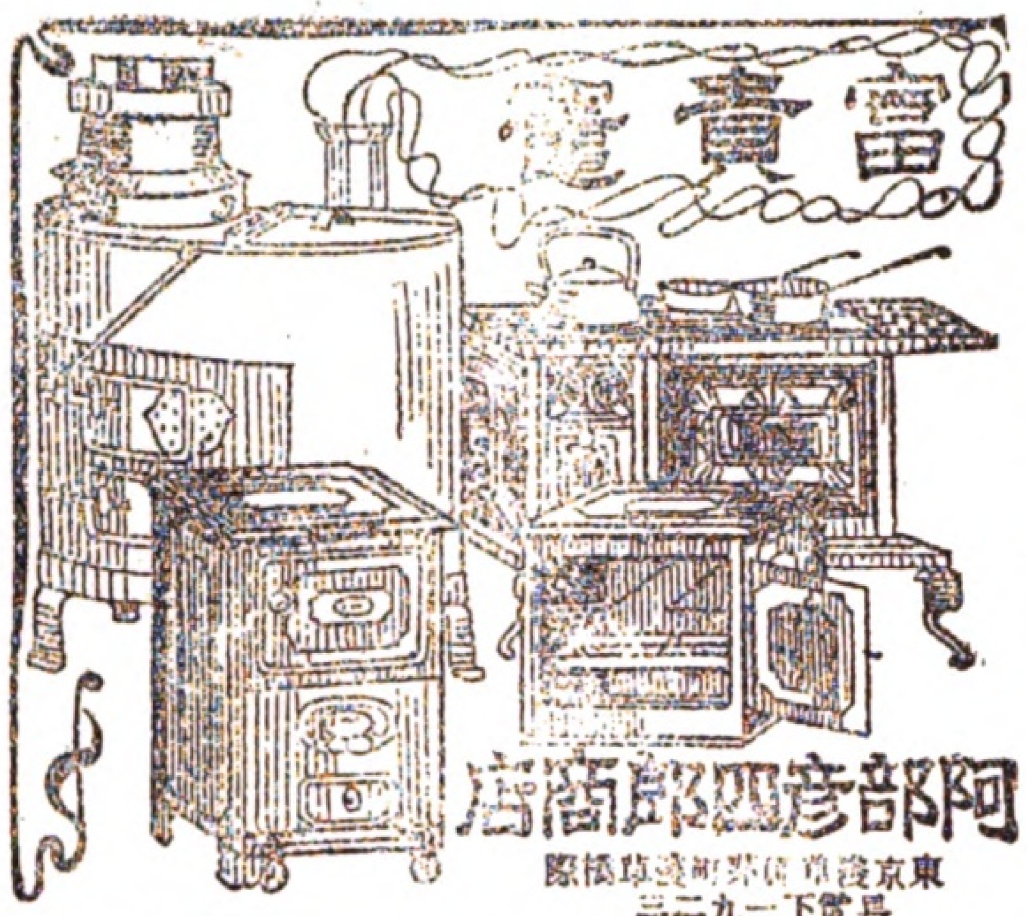
藥劑師　大西橋三　藥局

藥局主任藥劑師　田中利弘

德用 大俵炭 堅炭 土釜

右大俵炭は山出しのまゝにて壹俵の目方は拾貫目内外皆かます入に候賣買は目方に掛け候故至極御經濟の燃料に候間是非一度御ためし願度御用の節は電話又は端書にて被仰附候へば遠近多少を問はず無賃配達仕候

東京市神田區三崎川岸　電話本局三千貳百八番　戸塚商店



洋食器具類一式　商品目錄進呈

特許 輕便料理ストーブ　一名改良テンピは

輕便で完全に料理ストーブの効用を爲す特許テンピ小金四圓五拾錢 大金六圓

實用新案テンピ 金貳圓參拾錢

凱旋紀念五二共進會に於て金牌受領

恭賀新年

御婦人小間物一式

意匠斬新
くし、笄、かんざし
リボン、ヘーアピン、
サイドコム

美術小間物商　三ツ井屋

東京市神田區須田町十番地　電話本局二〇七六番

支店　神田神保町東明館內　新橋ぎわ博品館內　五二共進會階上

新刊◎

新婦の心得

英國醫學博士チエバセー著　巖谷小波序　三樹女史譯

著者は英國の有名な産科病院の醫學博士で妻としては夫を助け母としては子を育てる婦人の天職に就て親切丁寧に說明してあり歐米の各文明國にも歡迎されて既に數十版を重ねた本であります健全な家庭は健全な國家の基礎でありますから時世に後れぬ健全な家庭を組織せらるゝ御婦人方は是非一讀して其の福音に接せらるゝやう切に希望いたしまする

洋裝美製全一冊　正價金五十錢　郵稅金六錢

發行所　東京日本橋區通一　大倉書店

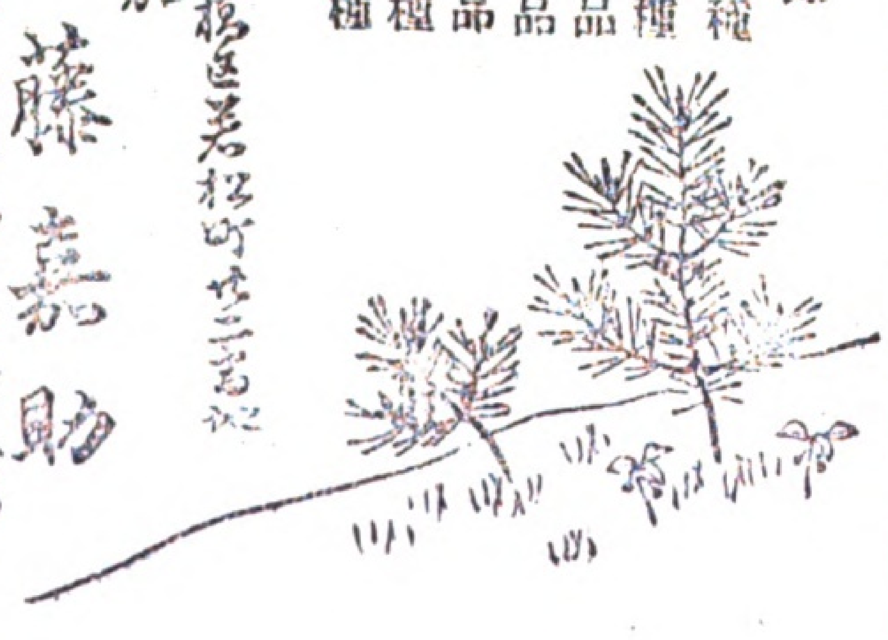
恭賀新禧

舊年中ハ種々の
引立を蒙り難有
御禮申上候
本年も尚不相變
御愛顧御用命之
程偏ニ奉願上候

一月元旦

販賣品目錄

ダイヤモンド其他寳石入指環各種
金銀製裝身具各種
御婦人用裝飾品
時計鎖り及附屬品
金銀茶器、床飾品
金銀盃各種
美術裝物各種



東京市日本橋區若松町廿二番地　丸嘉　齋藤嘉助　電話浪花七百六十八番

謹賀新年

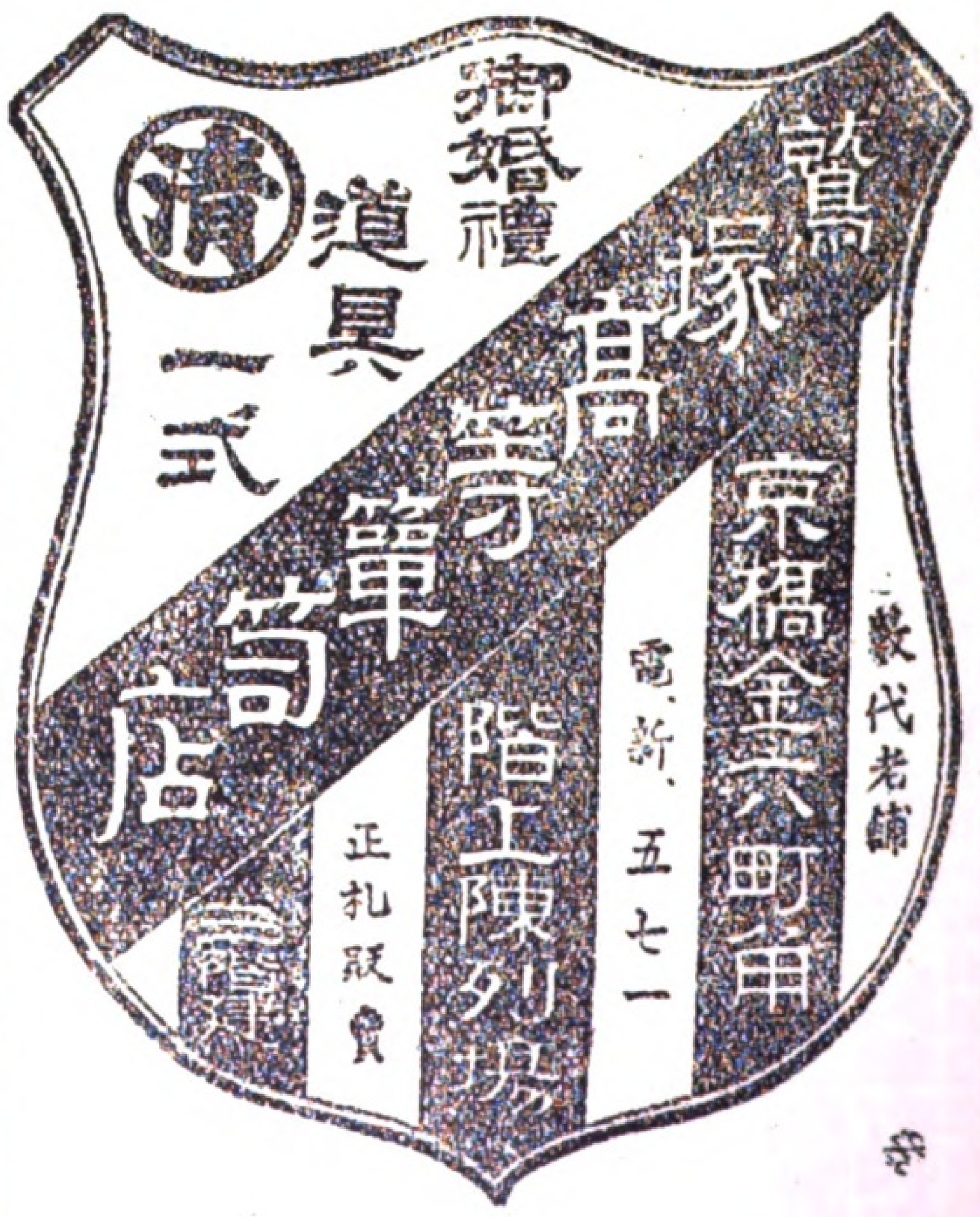
歐米各國御婦人用品卒先輸入

御婦人裝飾品多數

西洋諸小間物一式

東京市京橋區銀座三丁目　伊勢與　三枝小賣店　話新橋三九二七番

慶賀明治四十一年新春



簞笥目錄　御申越アレバ進呈　送費二錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋内）
日本興業銀行
電話本局 三、三〇〇番 四一番 (特)三七一番 一〇二番
資本金壹千七百五拾萬圓
營業科目
一 擔保附社債に關する信託業務
一 有價證券其他貴重品等の保護預
一 有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一 地方債、社債、株式等の發行募集事務
一 各種の信託事務
一 國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一 國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一 法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一 定期預金、當座預金、特別當座預金

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話(特)本局六七三番 電話本局四九八番
定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
特別當座預金 同日歩 壹錢壹厘

東京市日本橋區小舟町三丁目
株式會社 第三銀行
電話浪花四四二番 浪花四五一番
預金利子
定期預金 六ヶ月以上 年五分
當座預金 百圓に付日歩 八厘
別口當座 同日歩 壹錢
全國送金無手數料
其他銀行一般の業務便宜取扱可申候

スコット乳藥
小兒ノ發育期ニ用ユレハ其效驗ノ最モ著明ナルヲ證スルモノナリ
說明書ハ横濱郵便局私書函第五十八号スコット乳藥部ヘ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス
代理店横濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

◎牛豚肉販賣及西洋料理◎
◎品質佳良の肉類廉價に販賣候
◎配達は迅速に且つ正確に致候
◎滋養と風味の西洋料理調製候
◎西洋料理出前は格別相働き候
◎米店は精撰の白米廉價販賣候
◎御注文は電話又は葉書で願候
小石川表町廿二番地 電話番町六五九 西川本店
本郷區駒込東片町五番地 電話下谷二二七一 西川支店
小石川表町十一番地 電話番町一四六一 西川洋食店
小石川表町十八番地 米穀商 西川嘉門

袴乃親玉

東京日本橋區長谷川町 卸部 美濃磯本店 電話浪花二八五九番
本郷區本郷五丁目 小賣部 美濃磯本郷支店 電話下谷一四一五番
淺草區諏訪町 美濃磯淺草支店
日本橋區佐内町 美濃磯佐内町支店
神田區小川町 美濃磯神田支店
深川高ばし際 美濃磯支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町一丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

最新流行
美術蒔繪櫛
笄類小間物品
束髮用品
和洋化粧品
香水石鹸
東京日本橋通よし町
浪花一四四六
よしや

營業品概要
○各種時計類附屬品
○双眼鏡及アルズム鏡
測量用具諸械
製圖器及繪具
氣象觀測器械
貴金屬美術品
東京銀座四丁目
服部時計店
電話新橋長七一四、一三〇

謹賀新正
尚倍舊の御愛顧を乞ふ

正札附陳列場
西洋小間物 帽子各種 婦人用小間物
中久商店
束髮用具 内外化粧品 玩具文具
東京神田小川町通り 裏神保町一番地

賀正
新年御進物用珍品各種

御半襟處

京橋銀座二丁目 木村屋

醫院案内

院長 醫學博士 榊順次郎 每日午前診察
副院長 醫學士 久保德太郎 每日夕刻診察
婦人科産科榊病院
東京麴町三番町卅三（電話番町三九五）

内科小兒科 特に呼吸器病
麴町はやぶさ町二十八番地
ドクトル 川瀬元九郎
電話番町八二二番

◎婦人病專門
院長 櫻井克己
櫻井醫院
芝明舟町十九虎門外宮様前 電話新橋三三二四

小兒病診療
宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 内田愼太郎
●電話下谷七一八番

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山内科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
内科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世
峰内科醫院

内科一般
午前宅診 午後往診
東京神田區美土代町三丁目十七番地
板垣亨
電話本局貳千九百七十番

小兒科
乳兒ノ疾患及ビ育兒法
小兒皮膚病
拙者儀久ク獨逸伯林大學ニ於テ斯學ヲ專攻シ歸朝後毎日診療ニ從事ス
ドクトル メヂチーネ 長井岩雄
日本橋區數寄屋町一（電本百八十）

産科婦人科 楠田病院
東京日本橋區濱町三丁目七番地

眼科專門
診察時間 午前七時より十二時 午後三時より五時迄
神田區連雀町十八郵便局前
ドクトル 宇良田唯子
▲毎月第一日ハ診料藥價共無料

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京高等師範學校教授 文學士 松本孝次郎著

家庭に於ける兒童教育

◉總クロース菊版二百頁 定價五拾五錢 郵税八錢

本書は兒童教育專攻家として教育界に名聲隱なき著者が多年研究せられたる學説と實驗とを實地家庭に行ひ得らるゝやう極めて平易且切實を以て談話體に兒童教育法を説述せられたる者にして世にありふれたる家庭教育書類と全く其の選を異にせり而も何人にも解り易く容易に育兒の妙訣を了得するを得べしされば世の父母たる人は子女將來の爲是非熟讀せざる可らざるものなり此書は亦兒童教育の任にある學校教師等には必缺く可らざる良參考書なり

重要目次
◉第一家庭に於ける德育 ◉第二家庭に於て起り易き弊害 ◉第三兒童の賞罰 ◉第四遊戯の價値 ◉第五兒童文學 ◉第六兒童と自立心 ◉第七感情教育 ◉第八家庭と圖藝 ◉第九兒童と言語 ◉第十兒童と圖書 ◉第十一青年教育の注意 ◉第十二男女の兒童 ◉第十三小兒室の構造及設備

發行所 東京市京橋區築地二丁目 株式會社 國光社 電話新橋八八、二六九三
關西大賣捌 大阪市南本町 積文社

大日本淑女學會 會員募集

本會の講義錄
▲大版三百頁優麗なる册子
▲講義平易にして興味多し
▲各科講義の程度一定せり
▲各科皆聯絡し組織的なり
▲講師は專門女子教育家也
▲科外講師は博士學士世家
▲每號科外講譚を附錄とす
▲純潔高雅の家庭小説あり
▲每號雜錄四十餘頁を附す
▲會員の質問は直に解答す
▲會員の歌文を誌上に掲ぐ
▲學期每に修業證書を與ふ
▲講義錄は貳ケ年完結とす

御自分のお宅に居つて高等學校の全課程を講習なさらうとする本會におはいりなさい本會は文部省令に據り正則完全な女學講義錄を發行して頒ちます講義の親切丁寧な事は固より新式の教授法によつて獨習に最も便なる方法を計ります卒業は貳箇年會費も低廉では僅に都會一ケ月の學費があれば優に全學期を終はることが出來ます

▲規則書は申込次第送ります

▲報知新聞評　高等女學校の全學科を知名の女子教育家が講述せる者也平易懇切を主とせるものなれば何人も難解の虞なかる可く各科皆聯絡を保ちて其程度を一にせるなど講述者の苦心を見るに足る且つ有益なる科外講話の外に『姫百合』と題する五十頁の附錄あり博士學士等の婦人に關する評論史傳衛生家庭等の文字を滿載し卷末更に純潔高雅の小説あり凡て天下講義錄多しと雖も實益に趣味と併せ有する事斯くの如きは稀也

東京神田南甲賀町 大日本淑女學會（電話本局二千四番）

新刊 新年の好讀物

正月發行

日本の家庭

第五卷第壹號要目

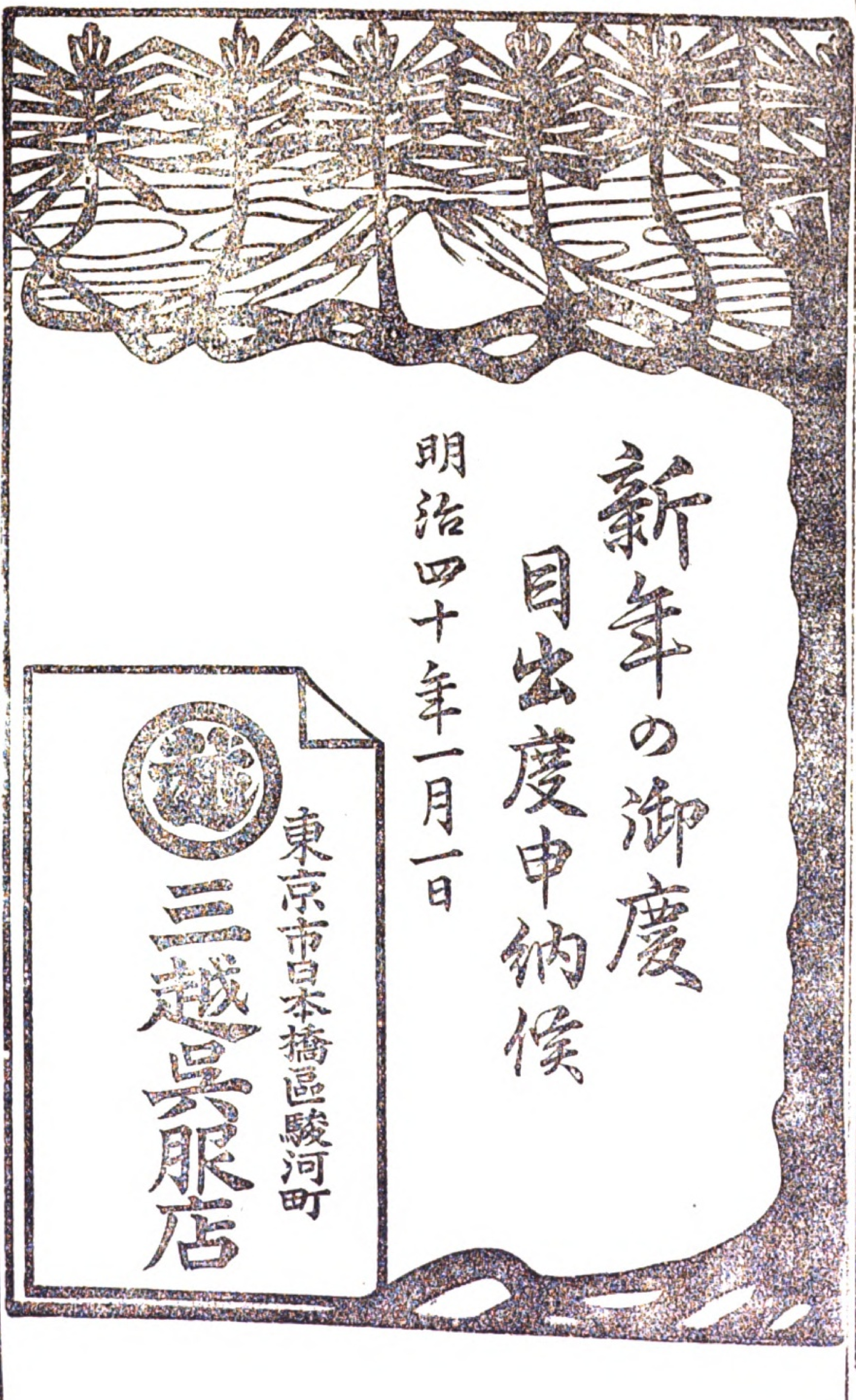
△口繪 子供の發育 記者
◎新年を迎ふ 坪井正五郎
◎世界の子供 大村仁太郎
◎新年の希望
◎社交について 山脇房子
◎子供の發育 高島平三郎
◎子供と金錢 星常子
◎高き理想に低き生活 嘉悦孝子
◎家庭の改善 野田義夫
◎新年を迎へて 柴田常惠

定價改正 ▲壹册金拾貳錢 ▲六ケ月分前金七拾五錢 ▲一ケ年分壹圓四拾五錢

幼稚園の選擇 東基吉
◎貝覆と歌がるた 關根正直
◎女子修養談 上原六四郎
◎正月の樂しさ 沼田笠峰
◎大みそか 福田琴月
◎新婚の正月 河井咀華
◎矛盾な言葉 岸本柳子
◎裁縫の時間と手數との省略 星つれ子
◎日用經濟家庭料理 中島鎮子
◎かるたの獻立 ゆふづき
◎健全なる婦人 まや樓主人
◎和歌 三宅花圃選
◎誌友くらぶ
臺所の改良 中島よし子

佐々木先生考案 及川泰治先生編 ◎地理讀本 鄕土 洋裝全二册 定價各金拾八錢 郵税各金四錢
柿山蕃雄先生書 教育學術研究會編 ◎家庭娛樂 圖畫と子供 和裝全一册 定價金六拾錢 郵税金八錢
西田常雄先生著 ◎子供のたのしみ第二篇 圖畫のけいこ 洋裝全一册 定價金拾錢 郵税金貳錢
十四名書伯揮毫 福田琴月先生編 ◎家庭書帖 お伽花壇 大判全一册 定價金六拾錢 郵税金拾錢
福田琴月先生編 ◎お伽旅行 世界めぐり（四編）亞弗利加探險 洋裝全一册 ▲第五編近刊▼ 定價金拾五錢 郵税金四錢
學習院教授 大村仁太郎先生編述 ◎教育寓話 十六版 我子の惡德 和裝全一册 定價金六拾錢 郵税金八錢

發兌元 東京市神田 同文館 大賣捌 東京神田 東京堂 大阪備後 寶文館



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

謹賀新年

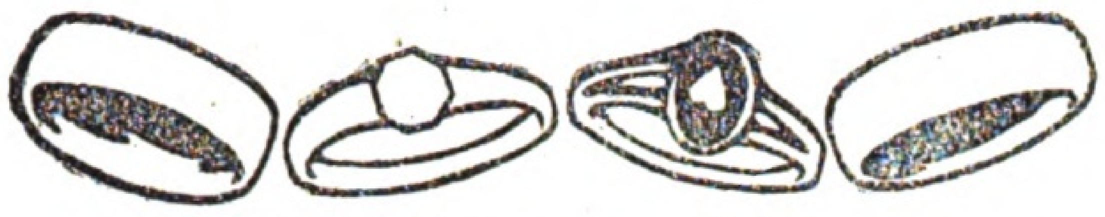
東京神田小川町當番地

金銀寶石細工
西洋小間物化粧品

金石舍美術店

電話本局六一八一番

謹賀新年



美術貴金屬袋物商

東京日本橋區人形町通り

澤田治助

電話浪花二五六九番

尚希當年の愛顧

新年の御慶目出度申納候

猶今春嶄新巧なる意匠入の新製品調製仕り候間御入用の御方は御一報次第送呈仕候

明治四十年丁未元旦

店主　松田幸次郎謹白

東京市銀座尾張町

白牡丹本店

電話新橋五五一番

愛國婦人記者 手島益雄氏著

農村の幸福法

二百ページ　定價金三十錢　郵税金四錢

上編目次

第一章家庭 如何にして結婚す可き乎―如何なる妻を迎ふ可き乎―如何なる夫を持つ可き乎―何を携へて結婚す可き乎―如何に結婚式を擧ぐべき乎―夫婦の權限は如何に定む可き乎―如何に相續す可き乎―家族關係は如何に定む可き乎―家族主義と個人主義―一家團欒◎第二章教育 子弟は如何に教育す可き乎―獨立心を養成す可し―新智識―旅行倶樂部―町村圖書館の設立―村史を編む可し―大學殖民◎第三章宗教 寺院廢合と宗教統一―鐘の音◎第四章自治 地方自治と警察權―村長郡長縣知事の位置―市長の位置―納税の義務◎第五章產業 信用組合を起せ―生產組合を起せ―購買組合を起せ―農家の副業―園藝の趣味◎第六章公共 消防組合―道路の整理◎第七章慈善 妊婦預所―子供預所―子供分配―召使懇親會―無料宿泊所―自殺防止會―動物虐待防止會◎第八章衛生 衛生思想―如何なる家屋に住む可き乎―村醫を置く可し◎第九章會合 處女會の組織方法―宴會の改良◎第十章娛樂 村芝居を始む可し―町村に音樂家を養成す可し―角力を盛に行ふ可し―盆踊を盛に行ふ可し

下編目次

家庭暦を作れ 家庭暦―祖先祭―墓參日―誕生日―戰勝紀念日―企業紀念日―親族招待會―家族同伴旅行會―子供旅行會―下女慰勞日―決算日―虫干日◎臺所の設備は如何にす可き乎 臺所の整理―婦人と建築思想―商人の出入口―郵便局の窓口―流しの工風―棚の作り方―水の口と湯の口―床の下とたゝき―竈の改良―水甕の改良―立つて仕事をする事―◎如何にせば貧乏になれる乎 朝遲く起る可し―時間の貧乏―虚榮心を作れ―身分に相應せぬもの―妻たるもの笑ふ勿れ―物の置場―入るを計る勿れ出るを制する勿れ―飯配達會社―只一つ―僅かなる金―衣服か貯金か―主人の小遣金―を整へな―玄關の下駄―女の髮―郵便の受附數―品物を懸けにて買ふ可し―汲む水は盡きず―反古籠に糸屑

發行所 新公論社　東京本郷區東片町百十一番地

取次所 愛國婦人發行所　東京麹町愛國婦人會內

恭賀新年

春の花にも秋の月にも盃ならして何んの樂しみかあらん殊に戰後功を論し賞を行はるゝにあたり祝盃として用ゐらるゝには又ふさはしき意匠の盃なかるべからずまた賞品として御授與せらるゝ盃は弊堂のものに限るへし

宮内省御用達　玉寶堂

東京市下谷池の端仲町

電話下谷(特)九六五番 一二四四番

探檢世界

毎月二回　新年號(第貳卷第四號)　一月五日發行

◎本號には大附錄として新年遊戲法を添附す

大熊退治實話　江島水陸
王族猛獸狩　堀内新泉
世界の長壽動物　理學博士 石川千代松
月桂樹の話　理學博士 伊藤篤太郎
猛獸使役實驗談　桑谷市太郎
孤島の王女　押川春浪
瑪瑙の森林　理學博士 横山又次郎
波の上の巨巖石　黒田湖山
最新北極探檢　理學士 山崎直方
新歐洲俗間迷信奇譚　高田大觀
獨逸の水上生活　芙蓉散人
菲律賓群島の奇風俗　林學博士 本多靜六

一冊十二錢郵税一錢　六冊郵税共金七拾錢　振替貯金法送金は爲替料郵税無料委細郵便局聽け本社口座貳貳〇九

東京本郷弓町　成功雜誌社　各雜誌店

謹賀新年

各女學校御用

附屬品幷に造花器械類一式

東京市日本橋區横山町一丁目十六番地

天野卯兵衛

電話(長)浪花一六四三番

營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御書添へ御申越被下度候

明治四十年一月一日發行(毎月五日二十日二回)(定價金三錢一ヶ月六錢)(郵税不要廣告料一行金六拾錢)發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 手島益雄　發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所　印刷所 東京牛込區市谷加賀町 秀英舍工場

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂　神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星堂　京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社　日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍　京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店　同區南鍋町 廣告社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）
明治四十年一月一日發行（毎月二回五日廿日）

閑院宮載仁親王殿下

閑院宮妃智惠子殿下

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN